

2016-2017

京都市立芸術大学
Kyoto City University of Arts

@KCUA
KYOTO CITY UNIVERSITY OF ARTS ART GALLERY



京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA 2016年度年次報告書 Annual Report

京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA
2016年度年次報告書
Annual Report 2016-2017

@KCUA
KYOTO CITY UNIVERSITY OF ARTS ART GALLERY

京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA

2016年度年次報告書

Annual Report 2016-2017

@KCUA

KYOTO CITY UNIVERSITY OF ARTS ART GALLERY

Martin Creed

特集

マーティン・クリード

2016年10月、京都市立芸術大学ギャラリー@KCUAでは、常に話題に事欠かない多彩な活動で国際的に活躍するイギリスのアーティスト、マーティン・クリードを招聘し、その活動を紹介するプロジェクトを企画・実施した。

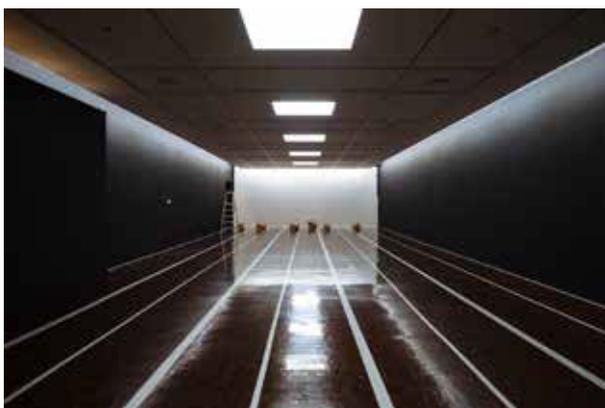
クリードは《Work No. 227(ライトが点いたり消えたり)》と題された、展示室の照明が5秒おきに明滅を繰り返すという作品で現代美術において最も重要な賞の一つであるターナー賞を2001年に受賞し、その後も一貫してミニマルでコンセプチュアルな作品を発表している。規則的な動きを伴うそれらの作品はいずれもリズムカルなものであり、展示空間におさまることのないパフォーマンスな作品をも手がけているのはごく自然な流れだと言える。

そこで今回の招聘プロジェクトではKYOTO EXPERIMENTと協働し、京都市立芸術大学ギャラリー@KCUAでの個展ならびに京都府立府民ホール“アルティ”での舞台公演を開催し、非常にリアルな感覚で鑑賞者に訴えかける強度を持つクリードの作品をさまざまな形で体験できる機会を設けることにした。

Text by Mizuho Fujita

準備

Preparation



関西初の個展となった本展では、舞台公演も同時に行われることから、シアトリカルな要素の強い展示を目指してマーティン・クリード・スタジオと対話を重ねた。最終的に展示作品として決定した劇場上演作品『Work No. 1020(バレエ)』と密接に関係する2点の映像作品を展示するため、クリードの指示で延べ300㎡を超える展示室全体をブラックボックス化させた。

また、クリードの来日に備え、金氏徹平(美術家/京都市立芸術大学美術学部彫刻専攻講師)ゼミのメンバーと共に、彼との「対話」の方法について検討した。



来日
お出迎え

Arrival

クリードの到着日は、奇しくも彼の誕生日であった！そこで「たんじょうびおめでとう」の横断幕でお出迎え。満面の笑顔での「はじめまして」に成功。空港から宿泊先のホテルを経て@KCUAへ。道中、送迎メンバーがクリードに質問するなど親交も深まった様子。



アーティスト
トーク
Artist Talk

展覧会の開幕日には、クリードによるアーティストトークが行われた。トークの冒頭からギターを手にしていたクリードは、自作の楽曲の演奏を合間に交えながら自身の活動について語った。

アーティストトークの終了後は、KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭 2016 AUTUMNのオープニングパーティーが行われた（関係者・招待客のみ参加）。



展示

Exhibition



マーティン・クリード

会期	2016年10月22日(土) - 11月27日(日)
出展作家	マーティン・クリード
協力	マーティン・クリード、ハウザー&ワース、ギャヴィン・ブラウン・エンタープライズ
会場設営	池田 精堂、今井 菜江、今道 鮎美、岸本 光大、熊谷 卓哉、中川 亮二、眞野 俊祐、迎 英里子
企画協力	荒木 優光、金氏 徹平、今井 菜江、黒川 岳、小松 千倫、藤田 紗衣、松延 総司

アーティストトーク

トーク	マーティン・クリード
通訳	伊藤 拓
音響	荒木 優光

@KCUA 1

Work No. 2656
Understanding
2016
デジタル映像、3分11秒

@KCUA 2

Work No. 1701
ウォーキング・フィルム (「You Return」に合わせて)
2013
デジタル映像、4分36秒



34ページに関連情報あり
Related information on p. 34

Martin Creed

Saturday, October 22 – Sunday, November 27, 2016

Artworks by Martin Creed

Courtesy the artist, Hauser & Wirth, and Gavin Brown's enterprise

Venue preparation and installation by Seido Ikeda, Nae Imai, Ayumi Imamichi, Mitsuhiro Kishimoto, Takuya Kumagai, Shunsuke Mano, Eriko Mukai, and Ryoji Nakagawa
Planned with support from Masamitsu Araki, Sae Fujita, Nae Imai, Teppei Kaneuji, Kazumichi Komatsu, Gaku Kurokawa, and Soshi Matsunobe

Artist talk

Talk by Martin Creed

Translation by Taku Ito

Sound by Masamitsu Araki

@KCUA 1

Work No. 2656

Understanding

2016

Digital film, 3 min. 11 sec.

@KCUA 2

Work No. 1701

Walking film (with "You Return")

2013

Digital film, 4 min. 36 sec.

1階の@KCUA 1では2016年の映像作品《Work No. 2656(Understanding)》、2階の@KCUA 2では2013年の映像作品《Work No. 1701(ウォーキング・フィルム(「You Return」に合わせて))》のそれぞれ1点のみを展示。自ら作詞・作曲した楽曲を使用する映像作品群は、一見これまでのクリード作品とは種を異にするように見えるかもしれない。インターネット上に公開されている動画として鑑賞した場合は特にそのように感じるだろう。しかしこれらの作品は、ミニマルながらインパクトの強いインスタレーション形式によってギャラリー空間の中に表現されるとき、実はクリードの表現の本質が凝縮されたものであることが際立ってくる。





リハーサル

Rehearsals

展覧会開幕後には、公演に出演するメンバーが来日。クリードも、仲の良いバンドメンバーと再会して緊張の糸がほぐれたのか、その表情は心なしか和やかに。日本人出演者と合流し、元崇仁小学校体育館にて、『Work No. 1020(バレエ)』のリハーサルを実施した。(オーディションにより出演者として選抜された3名の日本人ダンサー(飯田利奈子、野村綾子、山崎恵梨子)は、元崇仁小学校でのリハーサル開始の前日に、京都芸術センターの制作室にて他のメンバーより先に来日したロレーナ・ランディとの事前リハーサルを行っていた)

リハーサル中には、公演中で使用する作品の制作も行われた。ダンサーたちが足の指に筆を持ち、クリードの指示に従って交代で線を描き入れていく。

元崇仁小学校でのリハーサルを経て、京都府立府民ホール“アルティ”に小屋入り。劇場の設備などに興味津々のクリードは、上機嫌かつ絶好調。非常に良い雰囲気の中で公演準備が進んだ。





公演

Performance



公演はクリードの独白から始まり、クラシックバレエの五つのポジションに限定されたダンサーの動きに、クリード自身の作詞作曲による楽曲の演奏、映像作品の上映などさまざまな要素を盛り込んで進行していく。また、ドレス・リハーサル、本番の2公演とも、常にユーモアたっぷりのクリードらしいアドリブによって全く違った演出がなされた。この予測不可能な舞台公演は、おそらくテクニカルスタッフ泣かせであったに違いない。京都に降り立った、ユーモラスかつラディカルな現代美術界のスターは、美術と舞台芸術、いずれの枠からも奔放にはみ出した、ハッピーなパフォーマンスを私たちに体験させてくれたのだった。

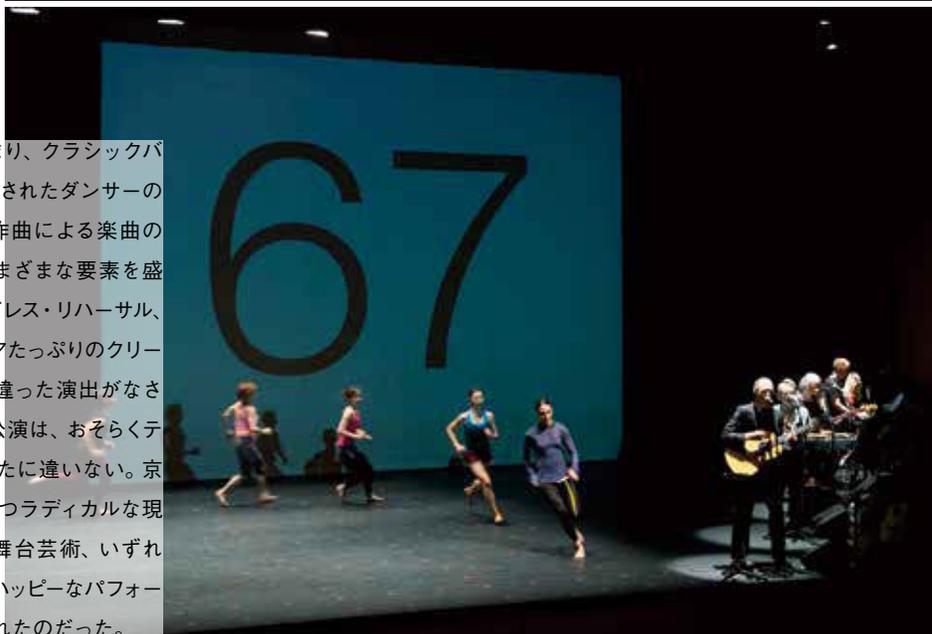


写真 | 守屋 友樹 Photos by Yuki Moriya

伊藤拓（通訳（アーティストトーク／テクニカル））

知らざるを知らずと為す 是知るなり

部屋の電気が5秒ごとに点いたり消えたりする作品で2001年にターナー賞を受賞した人が KYOTO EXPERIMENT に招聘されるので作品を観に行こうと思っていたら、KYOTO EXPERIMENT の事務所の方からお声掛けいただきマーティン・クリード並びに彼のチームの通訳（+その他）をすることになった。髪が長い写真がイメージ写真として多用されていたけれど、実際にやってきたマーティン・クリードは、髪を短くして、ことあるごとにウェットティッシュで手を拭いていた。とても繊細な人だと思った。

最初の仕事は、「マーティン・クリード」展オープニングイベントのアーティスト・トークの通訳だった。マーティンにどんな話をするつもりですかと尋ねると、彼はI don't know. と言った。彼はトーク中に歌を披露することが多いそうだが、どの曲を演奏するのですかと尋ねても、彼はやはりI don't know. と言った。事前に物事を決めてしまうことがあまり好きではないと教えてくれた。劇場入りの日の朝もそうだった。実際に初めて目にする京都府民ホール“アルティ”の様々な劇場機構に触れ、マーティンの目は少年のように輝いていた。チームのプロダクションマネージャーであるアントニーは、現代美術から舞台芸術に足を踏み入れつつある彼のことを「まるでエイリアン」と笑顔で評した。

本人と過ごした時間はとても短かったが、彼がしばしば口にするI don't know. はとても真っ当な言葉に思えた。銜い故の装いでも何でもなく、わからないからわからないと宣する態度は実に潔い。またI don't know. と同じぐらいの頻度でマーティンが口にしていたのは、Cool であった。この二つの言葉（感覚）、「知らんわ」と「ええやん」に揺れるマーティンの作品（生き方）に、多くの人がアート（生活）の再定義を求められたのではないだろうか。舞台の内外、前後左右からマーティン・クリードを感じる機会を得て、何かをよく知ろうとする姿はとても美しいと私は改めて感じた。あとたまにファックとも言っていましたね。ピース。

山口恵子（通訳（公演））

公演の冒頭でマーティンが何度も繰り返した“I want to be honest.（僕は誠実でいたいのです）”という言葉は、マーティン自身と彼の今作品の通底に流れる問いかけのように思われました。稽古初日、マーティンに本番でなにを話すのが尋ねにいくと、彼は大きな目でじっと私を見て「何を話すかはわからない（予測できない）」と言いました。実際、マーティンが話したのは本番の2回だけで、核になる信念は同じだったものの、二日とも内容は違うものでした。通訳をしながら彼の言葉に耳を傾けると、どうやって誠実になるか、誠実になるとはどういうことか、という問いが繰り返されていて、その言葉は通訳者の私にもそのまま跳ね返ってきました。

彼の誠実な本番は、リハーサルでは行われなかったことの連続で、頭でいちいち考えている時間はなく、私は彼に張り付き伝達し続けるだけでした。話す言葉だけでなく、ダンスの内容や曲も予定外のことばかりで、彼に張り付く感覚はダンサー、音楽家、スタッフ、皆同じだったように思います。とてもスリリングで、ただ一瞬一瞬に応えるしかなく、その状態を導き出すことが彼の技術であり、芸術であるのだと感じました。通訳者として、またパフォーマーとして貴重な経験を得られたと幸運に感じています。

関係者 コメント Comments

飯田利奈子（ダンサー）

ダンサーとしてアーティストと同じ舞台上に立つことは、私にとって初めての経験でした。はじめは不安なことも多かったのですが、マーティンを含むチームの方々がとても強い絆で結ばれていて、すぐにその中に溶け込むことができました。彼の音楽には心から響くものがあり、その音楽に合わせて踊る。私にとっては初めての経験でとても新鮮でした。

野村綾子（ダンサー）

バレエと音楽は常に一緒に演じられることが多いですが、そこにプラスして、言葉の力や映像での視覚の力、この全てが融合したアートとして今回の作品と特別な時間が生み出されたと感じました。

マーティン・クリード『Work No. 1020 (Ballet)』

構成・美術・音楽・出演		マーティン・クリード
出演		エマ・アーデン、飯田 利奈子、ケイコ・オオワダ・プロムリー、デルフィン・ガッポーリ、アノーシュカ・グロース、 メグ・ジェンキンス、野村 綾子、アンディ・マクドネル、山崎 恵梨子、ロレーナ・ランディ
通訳 (出演)		山口 恵子
照明デザイン・プロダクションマネージャー		アントニー・ヘイテリー
音楽監督		アンディ・マクドネル
舞台監督		浜村 修司
照明		川崎 渉 (RYU)
音響		高田 文尋 (ソルサウンドサービス)、高鳥 智司 (ソルサウンドサービス)
映像オペレーション		嶋田 好孝
衣装管理		清川 敦子 (atm)
プロジェクトマネージャー		クリオドナ・マーフィー
テクニカルコーディネーター		大鹿 展明
テクニカルコーディネーター (照明)		葎田野 浩介 (RYU)
テクニカルコーディネーター (音響)		大久保 歩 (KWAT)
通訳 (舞台裏)		伊藤 拓
制作		藤田 瑞穂 (京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA)、永田 絵里 (京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA)
制作アシスタント		岸本 光大 (京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA)、パヴェウ・パフチャレク、 伊地知 優樹 (KYOTO EXPERIMENTサポートスタッフ)
協力		寺田 みさこ、彌永 ゆり子

Martin Creed: Work No. 1020 (Ballet)

Concept, video art, music, performance: Martin Creed

Performers: Emma Arden, Delphine Gaborit, Anouchka Grose, Rinako Iida, Meg Jenkins, Andy McDonnell, Ayako Nomura, Keiko Owada-Bromley, Lorena Randi, Eriko Yamasaki

Translator - onstage: Keiko Yamaguchi

Lighting design/production manager: Antony Hateley

Musical direction: Andy McDonnell

Stage manager: Shuji Hamamura

Lighting: Wataru Kawasaki (RYU)

Sound: Fumihiro Takada (S.O.L. Sound Service), Satoshi Takatori (S.O.L. Sound Service)

Video operator: Yoshitaka Shimada

Wardrobe: Atsuko Kiyokawa (atm)

Project manager: Clodhna Murphy

Technical coordinator: Nobuaki Oshika

Technical coordinator - lighting: Kosuke Ashidano (RYU)

Technical coordinator - sound: Ayumu Okubo (KWAT)

Translator - offstage: Taku Ito

Production coordinators: Mizuho Fujita (Kyoto City University of Arts Art Gallery @KCUA),

Ellie Nagata (Kyoto City University of Arts Art Gallery @KCUA)

Production assistants: Mitsuhiro Kishimoto (Kyoto City University of Arts Art Gallery @KCUA),

Paweł Pachciarek, Yuki Ijichi (Kyoto Experiment support staff member)

Special thanks to Misako Terada and Yuriko Iyanaga

35ページに関連情報あり
Related information on p. 35

写真 | 守屋 友樹 Photo by Yuki Moriya

山崎恵梨子 (ダンサー)

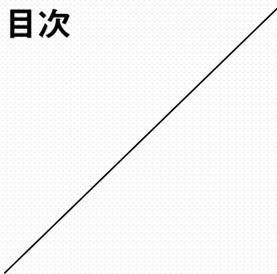
マーティンもマーティンチームのみなさんも、とてもアーティストックで素敵な方々でした。緻密に計算された時間差の動きやポジション、リズムに最初は戸惑ったけれど、それがだんだんとユーモラスに思えて、楽しんで出演することができました。いつの間にかマーティンの歌やメッセージと一体になれた気がします。こんな素敵な作品に参加できたことを本当に嬉しく思います。ありがとうございました。

マーティン・クリード

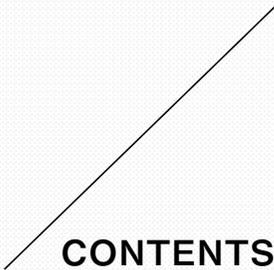
1968年イギリス ウェイクフィールド生まれ。ロンドン在住。1990年代から日用品・文房具など身近なものを素材にした作品を多く制作する。2001年《Work No. 227 (ライトが点いたり消えたり)》にてターナー賞受賞。近年の主な個展に、パーク・アベニュー・アーモリー (ニューヨーク、アメリカ、2016)、ヘイワード・ギャラリー (ロンドン、イギリス、2014)、テート・ブリテン (ロンドン、イギリス、2013)、アンディー・ウォーホル美術館 (ピッツバーグ、アメリカ、2013)、シカゴ現代美術館 (シカゴ、アメリカ、2012)、ニース近代現代美術館 (ニース、フランス、2011)、モスクワ市近代美術館 (モスクワ、ロシア、2010) など多数。音楽活動も行っており、2016年夏にリリースした「Thoughts Lined Up」のほか、「Mind Trap」(2014)、「Chicago」(2012)、「Love to You」(2012) など数枚のアルバムが発表されている。美術作品はMoMA (ニューヨーク、アメリカ) やテート (ロンドン、イギリス)、クリーブランド美術館 (クリーブランド、アメリカ) などに収蔵されている。ロンドン大学スレード美術学校卒業。所属ギャラリーはギャビン・ブラウン・エンタープライズとハウザー&ワース。

www.martincreed.com

目次



特集 マーティン・クリード	02
@KCUAについて	14
2016年度 事業総括	16
展覧会	19
イベント他	47
刊行物	54
平面図	56
運営委員会	58



CONTENTS

02	Special Feature Martin Creed
14	About @KCUA
16	2016–2017 Overview
19	Exhibitions
47	Events, etc.
54	Publications
56	Floor Plan
58	Steering Committee

京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA について

京都市立芸術大学では、京都市西京区の学内施設として1991年より芸術資料館を開館し、陳列室で所蔵品の展示を行うほか、大小二つの学内ギャラリー、大学会館など展示に使用できるスペースを持ち、また時にアトリエ棟や新研究なども活用しながら展示活動を継続しています。これらは作品鑑賞の機会を提供し、また学生たちの日頃の活動成果を公開する実験的発表の場としても機能しています。2010年春、京都堀川音楽高等学校の新築移転に伴って、その敷地内南側にギャラリー棟（堀川御池ギャラリー）ができ、そこに京都市立銅駝美術工芸高等学校と共に、京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA（アクア）が2010年4月2日からオープンしました。

「@KCUA」は大学の英語表記「Kyoto City University of Arts」の頭文字に場所を示す「@」を加えたもので、音読みするとラテン語の「アクア=水」となります。生命を養う水のように、芸術が人々の暮らしに浸透し、創造力豊かな社会に貢献するという本学の理想を表現しています。アクア・プロジェクトとは「京都市立芸術大学の三つの機関、美術学部・音楽学部・日本伝統音楽研究センターが連携して、ユニークな芸術研究・教育の一端を地域社会に開いていく試み」として開始されたもので、当ギャラリーにも同様の意図が込められています。@KCUAに期待される役割には、以下の3つがあります。

①教育・研究成果を広く市民へ公開すること

創立以来130年にわたって本学では、様々な成果を生み蓄積し、大学の内外で公表しています。京都市の中心部に発表の場ができたことによって、より身近な場で市民に公開できる機会が得られることになりました。ここでは在校生、教員および卒業生の研究成果に基づく展覧会、ワークショップ、講演・講座等を市民向けに開催すると共に、京都を中心とする産業界や教育機関、研究機関との連携プロジェクトの成果を発表することが期待されます。

②芸術文化創出の人材交流の場とすること

ギャラリーにおける展覧会、ワークショップ、講座等の企画に際し、成果の公表そのものを目的とするだけでなく、学内、同窓会、市民、産業界、教育関係諸機関、研究所などとの連携プロジェクトを通じて、広く人々が交流できる場を形成します。

③芸術資源の連携活用のサテライト機能を果たすこと

本学と市民、京都市、産業界、他の諸機関が連携するにしても、基盤となるのは、情報の収集と交換です。京都が有する芸術資源としての人、物、場所、風景や景観、技術、材料、暮らしの知恵に関わる情報を収集し、蓄積し、交流させる機関が必要となります。本ギャラリーは、衛星的な位置を利用して、情報の収集、蓄積、交換（発信と受信）の一翼を担います。



京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA 展示室(上:@KCUA 1/ 下:@KCUA 2)

写真 | 来田 猛 Photos by Takeru Koroda

2016年度 事業総括

展示空間と「リズム」

藤田 瑞穂(京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA 学芸員)

2016年の@KCUAの活動は、まず全ての備をいったん部屋の外に出すことから始まった。4月16日に開幕する「still moving-on the terrace」(pp. 20-23参照)にて、事務室およびその奥にある倉庫を展示室と位置づけ、逆に1階の展示室、@KCUA 1の約半分のスペースに「オフィス」として移動させたからである。また、2階の展示室である@KCUA 2と横にある倉庫も同様にひっくり返り、@KCUA 2は中身の見える「倉庫」になった。全ての空間を「誤用」することを「エクストラオーディナリー」な芸術大学のあり方を探すための実験と位置付けたために、私たちは約1ヶ月半の間、展示空間の中で来場者から全て丸見えの状態で過ごしたのだった。しかし、想定していたよりもはるかに早くそのことに慣れてしまった。しばしば作業機の横を人が通り抜けるようなこともあったが、それが私たちの「日常」となり、さほど気にも留めなくなった。これは、展示空間を反転させることに成功したことを意味するのか、あるいは単に「展示物」となったに過ぎなかったのか、それは未だによくわからない。

「still moving-on the terrace」の会期が終了し、私たちと入れ替わりに@KCUA 1に入ったのは、4トンもの陶土であった。しばらくすると緑色の小さな芽が顔を出すほどの、まさに生きた土である。植松永次「兎のみた空」(pp. 24-25参照)では、この土と一続きの床面に作品が設置された。素材と作品とが文字通り隣り合わせにある空間は、作家の日常の光景と重なり合う。植松の自宅兼アトリエには広い縁側があり、心地よい陽の光がその暮しを包んでいるのだが、床と壁の境目がやや曖昧になった白いカーペットを敷いたこの真っ白な空間は、この陽の光を彷彿とさせた。かすかに感じられる土の湿り気と共に、展示空間という概念を超越した何かがそこには確実に存在していた。

夏が過ぎ、マーティン・クリードの来日(pp. 2-11, 34-35参照)が近づいた頃、今度は展示室が天井を除いて真っ黒になった。二つの黒い部屋の中には、各1点ずつの映像作品が展示された。実は展覧会の開幕1ヶ月前まで全く別のプランで進んでいたところ、諸般の事情によってこういった形になったのだ

が、プランが確定してから私はしばらくそのことを引きずっていた。やがて来日したクリードによって現場確認がなされ、インストールが完了するまでは、完璧に仕上げられた空間で映像を再生した瞬間、@KCUAに「マーティン・クリード」が降臨したのを感じた。そこにはクリードの作品の要素が凝縮されていた。展示のタイトルは、確かに「マーティン・クリード」以外にはあり得なかった。そのことに気がついたのも、このときだ。

そしてこの黒い部屋は、堀川御池ギャラリーの3室を加えて全館での展示となるカワイオカムラ「ムード・ホール」(pp. 38-39参照)にも引き継がれることとなった。@KCUA 1と@KCUA 2の二つの部屋だけでなく、共有部分を含めて館内全てを展示空間と捉えるときにいつも問題になってくるのが、2階のラウンジ部分(pp. 54-55参照)の使い方である。そこに登場したのが美術家で本学彫刻専攻講師の金氏徹平のディレクションによる、展示台をあるだけ積み上げ、1階から2階に続く吹き抜け部分まで届く展示台タワーだった。そのタワーの上に鎮座するのは、カワイオカムラ作品におけるキーパーソンである「Y. I. ロードブレアース」。この展示では、1階のGallery Aを起点として2階のGallery C→2階ラウンジ→Gallery B→廊下→@KCUA 2→@KCUA 1という、通常時とは逆の流れでの順路が組まれていた。二番目の部屋であるGallery Cに展示されていた「コロソス」にて一度殺されたはずの「Y. I. ロードブレアース」が、奈落の底から積み上げられた箱の上で、こちらを向いて微笑んでいる。彼は地獄から這い上がってきたとでもいうのだろうか……？そして不死身の男、「Y. I. ロードブレアース」は、ここから先も全ての部屋の映像に出演している。カワイオカムラの完璧主義に貫かれた、謎めきつつもユーモラスな世界観が2階のラウンジにも満たされ、まさに「全館仕様」の展覧会となった。

マーティン・クリードの公演、そして本年度から開始したアートマネジメント人材育成事業「状況のアーキテクチャー」のため、昨年度に引き続きたびたび館外に飛び出していた@KCUAではあったが、その一方で、このように展示空間について、あるいは

展示のために設えられた空間とそうでない空間との関係性について考えざるを得ない局面をたびたび迎えてもいた。

マルセル・デュシャンは、大量生産された既製品をそのまま「作品」として展示空間に陳列するレディ・メイドという方法によって、芸術生産の一回性、つまり芸術作品は芸術家の手仕事による生産物でなければならないという既成概念を打ち破った。芸術家は「選ぶ」というただ1点の行為により作品に関与するが、それはその芸術家の美学が反映されたものではなく、視覚的な無関心によるものであると定義し、作品への美学的判断の介入を排除した。芸術と非芸術との境界線はただ制度的な展示空間に拠るものとなり、ひとたびその中に入れば美術品としての永遠を約束されるというわけである。

やがて1960年代以降、旧来の美術におけるカテゴリーがゆらぎ、70年代にはギャラリーや美術館などの枠を超える作品が登場する。ロザリンド・クラウスはその著書『彫刻とポストモダン——展開された場における彫刻』において、それをポストモダンな展開と位置付けた。そして、設置された空間そのものを作品とする「インスタレーション」という表現手法が一般化していった。

そして「インスタレーション」という言葉が表現ジャンルの一つという領域を超えて使用されている現在、展示空間とは何かという問いが年間を通じて浮かび上がってくることは、基本業務として展示を手がける機関としてはある意味正しい反応なのかもしれない。また、2023年に予定された郊外から都市部への移転に向けて、あらためて「芸術であること」「大学であること」「地域にあること」の意味についての考察を目的に掲げた「状況のアーキテクチャー」のプロジェクトでは、既存の枠組み、構造からいったん離れて、物事を捉え直す試みに多数取り組んだのだが、これらもまた、さまざまな要素を削ぎ落としたシンプルな問いに対峙する作業であった。

「シンプル」という言葉が出てきたところで、あらためて話をクリードに戻そう。初期の作品から最新の作品に至るまで、クリードの作品では、例えば日用品や文房具などを繰り返し置く、あるいは積み重ねるといったように、「反復」や「規則性」が強調され、

それが動きとなって現れている。この度@KCUAで手がけた彼の展示、公演も例外では無い。彼の関心は、作品となり得るものはいったい何か、また作品が周辺の世界とどのように関わるのかということにある。この「反復」や「規則性」のモチーフは、人間の生活における生の周期性と密接に関係するとともに、現代社会の構造をも彷彿とさせるものである。資本主義社会においては、生産の継続的の反復とそれによる消費の反復過程という、生産と流通の経済的循環が行われている。ジャン・ボードリヤールが著書『消費社会の神話と構造』にて示した「日常的ルシクラージュ (recyclage)」、つまりモノがそれ自身として持つ効用のためではなく、他のモノとの示差的な関係から生れる記号的な価値のゆえに消費される社会の中で、消費は一種の言語活動であり、人はコミュニケーションとしての記号消費によって自己を効果的に個性化=差異化するために、変動する意味づけのコードをたえず学習せざるを得ないという「反復」が、消費社会には刻み込まれているのである。

この消費社会の中でありふれたものを素材にしてきたクリードの活動は、一見レディ・メイドの概念からの延長線上にあるかのようにも思われがちだが、全く独自の価値観によって創造されたものである。クリードによってひとたび社会の文脈から切り離されたモノにまつわる「反復」は「リズム」として再提示される。今回@KCUAの企画では、展示・公演ともにその「リズム」という面が強調されていた。資本主義の限界が見えてきたと言われる昨今ではあるが、コンセプチュアルでありつつも社会の日常にも密接に関係するクリードの作品の強度は並大抵のものではない。そのことを、彼が京都に滞在した十日あまりの間に、私は痛感などという陳腐な言葉では表せないほど感じたのだった。

もしかすると、2016年に「展示空間とは何か」という問いについて繰り返し考えざるを得なかったのは、このクリードの「リズム」に誘われてのことだったのかもしれない、というのはやや強引な締めくくりだろうか。しかし2016年という年度を振り返るとき、そう思わせて余りあるほど、やはり巨匠は巨匠であった、とだけはとにかく言っておきたい。

凡例

- ・肩書きは2016年度当時
- ・Names are listed in Japanese alphabetical order (some exceptions may apply).
- ・Titles and positions are listed as of the date of the exhibition or event.
- ・All exhibitions and events held at Kyoto City University of Arts Art Gallery @KCUA unless otherwise noted.

展覧会
Exhibitions



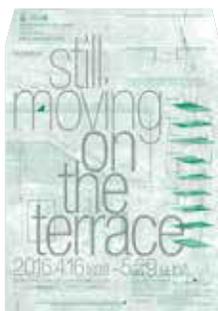
写真 | 来田 猛 Photos by Takeru Koroda

2016.4.16 Sat - 5.29 Sun

京都市立芸術大学移転整備プレ事業

still moving - on the terrace

- 展示室 | エントランスホール、@KCUA 事務室、@KCUA 倉庫、@KCUA 1、北側階段、廊下、@KCUA 2、倉庫A、吹き抜け、エレベーター
開催日数 | 38日間
入場者数 | 6,244人
企画 | 京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA
主催 | 京都市立芸術大学
協力 | 京都市
助成 | 平成28年度文化庁「優れた現代美術の海外発信促進事業」
印刷物 | 封筒型フライヤー デザイン：松本 久木
B5判報告書、たねまきアクア02(54-55ページ参照)



Curated by Kyoto City University of Arts Art Gallery @KCUA. Organized by Kyoto City University of Arts with the cooperation of Kyoto City and additional funding from the Japanese Agency for Cultural Affairs

Printed matter

Envelope-shaped flyer designed by Hisaki Matsumoto
B5-sized book and Tanemaki Akcua 02 (see pp. 54-55)



プロジェクトメンバー
PROJECT MEMBERS

小山田 徹
Toru Koyamada

杉山 雅之
Masayuki Sugiyama

Studio INAMATT
Studio INAMATT

高橋 悟
Satoru Takahashi

長坂 常 (スキーマ建築計画)
Jo Nagasaka (Schemata Architects)

坂東 幸輔
Kosuke Bando

森野 彰人
Akito Morino

金氏徹平プロジェクト
Teppei Kaneuji Project

金氏 徹平
Teppei Kaneuji

今井 菜江
Nae Imai

河原 功也
Koya Kawahara

小松 千倫
Kazumichi Komatsu

許 芝瑜
Hsu Chih-Yu

平田 万葉
Maha Hirata

藤田 紗衣
Sae Fujita

松永 愛沙
Aisa Matsunaga

本山 ゆかり
Yukari Motoyama

森 美哉子
Miyako Mori

Gゼミ
Seminar G

井上 明彦
Akihiko Inoue

亀井 寿美
Sumi Kamei

熊田 悠夢
Yumu Kumada

田中 美帆
Miho Tanaka

出口 義子
Yoshiko Deguchi

前田 菜月
Natsuki Maeda



関連イベント

4月16日(土)

○オープニング・レセプション

4月22日(金)・5月11日(水)・5月18日(水)

○崇仁地域の模型作りワークショップ

講師：坂東 幸輔

4月28日(木)

○中空茶会 その1

4月29日(金・祝)

○「moving terrace」作成ワークショップ

講師：長坂 常

4月30日(土)

○「手乗り養生くん」木彫ワークショップ

5月3日(火・祝)

○お囃子アンサンブル・コンサート

出演：アンサンブル・リュネット

5月5日(木・祝)

○中空茶会 その2

5月6日(金)

○崇仁地域まち歩き+サウンドレコーディング

講師：micabando

会場：崇仁地域

5月8日(日)

○崇仁春祭り・船鈴・曳山巡行

会場：崇仁地域

5月14日(土)

○巨大あやとり発表会・in 崇仁

会場：元崇仁小学校 グラウンド

5月15日(日)

○フロートクイイベント

会場：京都市立芸術大学集合、@KCUA まで徒歩で移動

○Curators Meeting @KCUA

ゲスト：森山 貴之、徳山 拓一(元・@KCUA 学芸員)

○No hospitality, but bar

会場：@KCUA オフィス内

ゲスト(店主)：増本 泰斗

5月19日(木)

○崇仁地域の音コンサート

出演：micabando

○環境デザイン専攻公開ゼミ

5月20日(金)

○活版ワークショップ

○中空茶会 ファイナル

5月29日(日)

○小川治兵衛氏(庭師・植治11代目) お話の会「庭の養生について」

○あやとり茶会

○“フロートとストック” 梱包パフォーマンス

・「梱包パフォーマンス」

・「フロアイングスペース/ストックザサウンド」(クロージング・パーティー)

出演：荒木 優光、小松 千倫(Madegg)

会期中複数回

○「ホテル養生」内「なまテレビ」放送



京都市立芸術大学のJR京都駅の東側エリア「崇仁地域」への移転計画は、2023年のキャンパス供用開始を目指して着々と進められている。

移転整備プレ事業の一つである「still moving」は、本学関係者を中心としたメンバーによる継続的なプロジェクトである。第2回となる本企画では、移転後の本学が果たす役割を想定した実験が繰り返された。@KCUAおよび堀川御池ギャラリーの共有スペースの空間全てを創造的に「誤用」というテーマに基づき、

倉庫や事務室など通常公開されることのない空間と展示室とを入れ替えたり、現在大学にあるものを運び込んだり、崇仁地域にあるモノ・コトをモチーフとした空間を作り上げるなど、さまざまな形での試みがなされた。また、常に動いている状態を作り出すために@KCUAおよび崇仁地域を会場とする合計20件以上のイベントも実施された。新しい生き方・働き方・コミュニケーションの在り方などを模索するこれらの活動は、本企画の会期終了後もかたちを変化させながら続いている。



2016.6.11 Sat - 7.31 Sun

植松永次「兔のみた空」

出展作家 | ARTIST

植松 永次
Eiji Uematsu

展示室 | @KCUA 1, 2
開催日数 | 44日間
入場者数 | 2,250人
企画 | 徳山 拓一
京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA
主催 | 京都市立芸術大学
印刷物 | フライヤー デザイン: 佐藤 いつか
たねまきアクア02(55ページ参照)

Curated by Hirokazu Tokuyama and Kyoto City University of Arts Art Gallery @KCUA.
Organized by Kyoto City University of Arts

Printed matter

Flyer designed by Itsuka Sato
Tanemaki Akcua 02 (see p. 55)



… 関連イベント …

6月11日(土)
○アーティストトーク
スピーカー: 植松 永次、内田 明夫
○オープニングレセプション

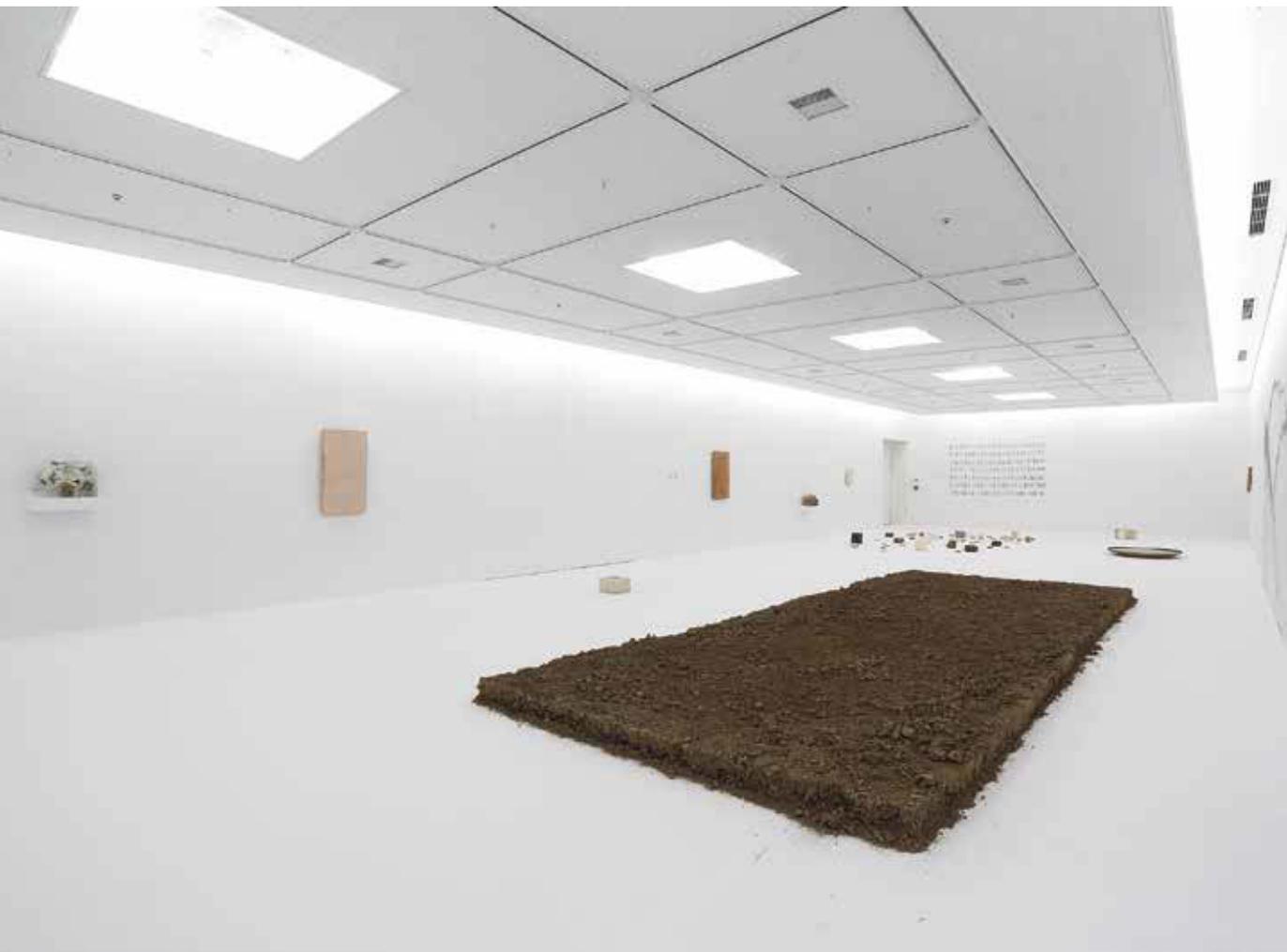




写真 | 来田 猛 Photos by Takeru Koroda



伊賀・丸柱を拠点とし、土と火を素材として作品を制作する植松は、焼成された器としての機能をもつ作品だけではなく、空間を意識的に使ったインスタレーションや観客との対話を中心に据えたインタラクティブな作品など、多様な作品を制作し続けてきた。本展では、最新作のインスタレーションを中心に、植松のこれまでの創作活動を総観できる多彩な作品群を紹介した。

会期中にはギャラリストとして植松の作品を長年発表していた内田明夫氏とのトークイベントを開催。内田氏は現在、長野県で農業を営んでいる。当日は立見席も生じる満員の中、卓越した審美眼を持つ内田氏からみた植松作品について、また双方の豊富な人生経験を通じた示唆に富んだ話を聞く貴重な機会となった。



写真 | 大島 拓也 Photos by Takuya Oshima

2016.8.4 Thu - 8.14 Sun

京都市立芸術大学芸術資料館収蔵品展 ARTであしあと7 正方形の扉から ——版画専攻共同制作“PRINTLAB”

- 展示室 | @KCUA 1
 開催日数 | 10日間
 入場者数 | 518人
 企画 | 京都市立芸術大学芸術資料館
 京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA
 主催 | 京都市立芸術大学
 協力 | 京都市立芸術大学美術学部 平成28年度前期「調査研究・企画運営演習A」受講生

Curated by the Kyoto City University of Arts Art Museum and Kyoto City University of Arts Art Gallery @KCUA with the cooperation of the students in the practical course on research and curation at KCUA (first semester, 2016).
 Organized by Kyoto City University of Arts

学生と教員の関係から生まれる学びの足跡を、作品を通して紹介する「ARTであしあと」の第7回は、本学芸術資料館の収蔵品より、本学の版画専攻において毎年制作されている共同制作“PRINTLAB”を紹介。

版画専攻では、本学の沓掛への移転後に、授業の中にポートフォリオの制作を組み込むようになる。はじめは、それぞれの学生が自分の作品で組作品を作っていたが、やがてひとつの主題のもと、卒業生・修了生が共同制作するようになる。1996年からは大きさのみならず装幀も規格化された“PRINTLAB”のシリーズが始められ、現在も継続して制作されており、毎年芸術資料館の資料として登録されている。

本展では収蔵されているポートフォリオのうち、1980年代の個人ポートフォリオの一例と、1997年、1998年、2001年、2004年、2012年、2014年の“PRINTLAB”ならびに2015年までの全ての“PRINTLAB”のケースを展示した。





写真 | 松浦 莞二(スタジオkk) 提供 | 黒宮 菜菜 Photo by Kanji Matsuura (studio kk), courtesy of the artist

出
展
作
家
|
A
R
T
I
S
T

黒宮 菜菜
Nana Kuromiya

2016.8.4 Thu - 8.21 Sun

黒宮菜菜「夜——朧げな際」

展示室 | @KCUA 2
開催日数 | 16日間
入場者数 | 1,199人
主催 | 京都市立芸術大学
助成 | 公益財団法人 野村財団
印刷物 | A4判フライヤー デザイン: 仲村 健太郎

Organized by Kyoto City University of Arts with additional funding from Nomura Foundation

Printed matter

A4-sized flyer designed by Kentaro Nakamura



黒宮は、自ら知覚できるものではなく、想像で補完されたものでしかない身体の輪郭の稀薄さや不安定さを「滲み」や「暈かし」によって表現してきた。その不明瞭な「際」は、その描写方法による物理的な輪郭の不確かさだけでなく、「描く」という行為と、液状に溶いた絵具そのものが広がっていくという「現象」との間で、描画する主体の揺らぎをも表している。そして黒宮は、この移ろう「際」を、「夜」になぞらえる。

これまで黒宮が作品展示を行った展覧会のなかでは最大規模となった本展では、油彩による絵画に加え、新たな試みとなる染料と和紙を用いた水彩絵画の合計35点が発表された。近年、絵具の滲みを意識的に調整する精度をさらに高めた黒宮は、「極」を以前よりさらに彼女自身の感覚に近づいたものとして表現する。今回の展示で示された黒宮の意欲的な取り組みは、各方面から高い評価を得ることとなった。

出展作家
— ARTISTS —

青木 加奈
Kana Aoki

伊山 由香
Yuka Iyama

小西 景子
Keiko Konishi

齋藤 華奈子
Kana Saito

藤田 紗衣
Sae Fujita

水谷 昌人
Masato Mizutani

宮木 亜菜
Anna Miyaki

藪下 紘可
Hiroka Yabushita



写真 | 大島 拓也 Photos by Takuya Oshima

2016.8.20 Sat - 9.4 Sun

通りぬけフープ

展示室 | @KCUA 1
開催日数 | 14日間
入場者数 | 1,622人
主催 | 京都市立芸術大学
印刷物 | A4判フライヤー デザイン: 谷島 正寿

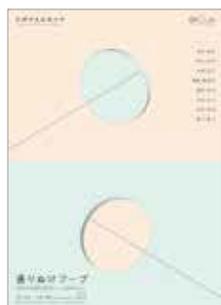
Organized by Kyoto City University of Arts

Printed matter

A4-sized flyer designed by Masatoshi Yajima

関連イベント

- 8月20日(土)
○オープニング・パーティ
- 8月20日(土) - 8月27日(土)
○出展作家 宮木亜菜によるパフォーマンス
- 8月27日(土)
○トークイベント: 吉岡 洋
- 8月28日(日)
○展覧会鑑賞ツアー: 山田 毅



本展のタイトル「通りぬけフープ」は、そのテーマである「通過すること」を表している。孔版画であるシルクスクリンでは、製版された版をインクが通りぬけることで、モチーフが支持体の上に定着しイメージとして現れる。こうした物質に限らず、情報や経験、時間なども通過するものと捉え、8名の作家がそれぞれのアプローチによって制作した合計29点の作品を発表した。これは、展覧会場を一つの通過地点として、作家と、鑑賞者の双方の立場からこのテーマを考察するための問いかけであったといえよう。

また、会期中にはテーマの言語化に比重を置き、哲学者で芸術学者の吉岡洋氏を招いてトークイベントを開催。テーマを分解し理解を深めると共に新たな視点を発見する機会となった。また閉館後の展覧会場で行われた作品鑑賞ツアーでは、凝視しないと見えないことや見逃してしまうことに着目し、出品者とイベント参加者による意見交換が行われた。

出展作家
— ARTISTS

岡本 秀
Shu Okamoto
楠井 沙耶
Saya Kusui
西村 有未
Yumi Nishimura
西森 加奈
Kana Nishimori
武藤 桃
Momo Muto



写真 | 大島 拓也 Photo by Takuya Oshima

2016.8.30 Tue – 9.19 Mon

京都市立芸術大学芸術学研究室による総合選抜展

Colors of KCUA 2016 「ニューバランスはあらわれた」

展示室 | @KCUA 2

開催日数 | 20日間

入場者数 | 1,921人

企画 | 京都市立芸術大学芸術学研究室

京都市立芸術大学美術学部総合芸術学科

4年 砥綿 菜、川久保 美桜 3年 佐々木 愛、豊増 日菜

2年 小林 奏子、中野 ふくね、渡邊 瞳

京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程芸術学専攻

2年 河原 功也 1年 岡田 真輝

主催 | 京都市立芸術大学 京都市立芸術大学芸術学研究室

印刷物 | A4判フライヤー デザイン：原野 萌

A5判報告書 編集：京都市立芸術大学研究室

発行：京都市立芸術大学 発行日：2016年12月24日

Curated by Kyoto City University of Arts Science of Art. Curation team comprised of students from the Department of General Science, Faculty of Fine Arts, Kyoto City University of Arts – Shiori Towata (BA year 4), Mio Kawakubo (BA year 4), Mana Sasaki (BA year 3), Hina Toyomasu (BA year 3), Kanako Kobayashi (BA year 2), Fukune Nakano (BA year 2), and Hitomi Watanabe (BA year 2) – and the Department of Science of Art, Graduate School of Arts, Kyoto City University of Arts – Koya Kawahara (MA year 2) and Maki Okada (MA year 1). Organized by Kyoto City University of Arts and Kyoto City University of Arts Science of Art

Printed matter

A4-sized flyer designed by Moe Harano

A5-sized booklet edited by Kyoto City University of Arts Science of Art and published by Kyoto City University of Arts on December 24, 2016



関連イベント

8月30日(火)

○ギャラリートーク&棒立ちライブ&オープングレセプション

9月11日(日)

○芸術学研究室によるイベント

9月11日(日)、9月17日(土)

○楠井沙耶 ワークショップ「たたむひろがるこのここ」

8月30日(火)–9月19日(月・祝) 不定期開催

○武藤桃「監視員による会話のパフォーマンス」

本学芸術学研究室の学生が中心となって2011年から企画・運営している卒業生・在学生選抜の展覧会「Colors of KCUA」シリーズの第5回。研究活動と並行して制作の現場にも関わる芸術学研究室ならではの視点から作家を選定し、本学の制作活動や動向を広く学外に発信することを目的としている。

タイトルに掲げられた「ニューバランス」は、出展作家5人の制作に共通して見られる特徴を表している。平成生まれの特質を、それとしてしばしば語られる「突き抜けない」「まわりくどい」といった傾向と類似しつつも異なるものと定義し、その繊細なバランスを美術に変化をもたらす「ニュー」なものとして発信することを試みた。



写真 | 大島 拓也 Photo by Takuya Oshima

2016.9.10 Sat - 9.19 Mon

災害復興支援・芸術活動支援チャリティーオークション SILENT @KCUA 2016

展示室 | @KCUA 1
 開催日数 | 10日間
 入場者数 | 1,446人
 主催 | 京都市立芸術大学サイレントオークション実行委員会
 後援 | 京都市
 京都市教育委員会
 京都市立芸術大学美術学部同窓会
 京都市立芸術大学美術教育研究会
 印刷物 | A4判フライヤー、B3判ポスター、ポストカード デザイン：仲村 健太郎
 B5判カタログ(54ページ参照)

関連イベント

9月10日(土)
 ○オープニングレセプション

Organized by the Kyoto City University of Arts Silent @KCUA Committee with support from Kyoto City, Kyoto City Board of Education, the Alumni Association of Kyoto City University of Arts (Faculty of Fine Arts), and Kyoto City University of Arts Art Education Society

Printed matter

A4-sized flyer, B3-sized poster, and postcard designed by Kentaro Nakamura
 B5-sized catalogue (see p. 54)



チャリティーオークション「SILENT @KCUA(サイレントオークション)」は、東日本大震災の復興に関わる活動をしている団体等を広く支援することを目的として、2011年より10年間の継続を目標として実施している。入札方法にサイレントオークションを採用し、さらに作家名を伏せて作品を展示するという形式をとっている。本年度は、熊本地震の復興に関わる活動を行う団体も対象として災害復興を支援。本学の学部生、院生、留学生、教員(非常勤含む)、旧教員、卒業生、修了生など本学ゆかりの作家190名から387点が集まった。収益の7割を被災地に芸術を通じたボランティア活動、支援活動を行っている団体への活動資金として、また3割を京都市立芸術大学に在籍する学生の芸術活動の支援金(留学支援・奨学金)として寄付を行った。

出展作家
— ARTISTS

アンヌ・クシラダキス+杉山 早陽子
Anne Xiradakis and Sayoko Sugiyama

ダミアン・ジャレ+ジル・デルマス(9月24日から)
Damien Jalet and Gilles Delmas (Sept. 24-)

オリヴィエ・セヴェール
Olivier Sévère

レティシア・バドー・オスマン
Laëtitia Badaut Haussmann

エミリー・ペドロン+清水 志郎+天江 大陸
Émilie Pedron, Shiro Shimizu, and Dairik Amae

マルティネス・バラ・ラフォーレ・アーキテクト+坂東 幸輔+京都市立芸術大学(君野 加奈、中井 由梨、宗接 花菜、寺岡 波留)
Martinez Barat Lafore Architectes with Kosuke Bando and Kyoto City University of Arts (Kana Kimino, Kana Munetsugu, Yuri Nakai, and Haru Teraoka)

フェリペ・リボン+関口 涼子(9月21日から)
Felipe Ribon and Ryoko Sekiguchi (Sept. 21-)



写真 | 大島 拓也 Photo by Takuya Oshima

2016.9.10 Sat - 10.2 Sun

ニュー・ブランシュKYOTO 2016 @KCUA

NEW LIFESTYLE ヴィラ九条山との共同プロジェクト

48-51ページに関連情報あり
Related information on pp. 48-51

展示室	@KCUA 2, Gallery A, B, C(@KCUA 2は9月24日から)
開催日数	21日間
入場者数	2,596人
展示会場構成	マルティネス・バラ・ラフォーレ・アーキテクト+坂東 幸輔+京都市立芸術大学(君野 加奈、中井 由梨、宗接 花菜、寺岡 波留)
制作協力	池田 精堂
企画	ヴィラ九条山 京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA
主催	京都市立芸術大学 ヴィラ九条山
助成	平成28年度文化庁「大学を活用した文化芸術推進事業」
印刷物	「状況のアーキテクチャー」2016年度報告書(55ページ参照)

Exhibition design by Martinez Barat Lafore Architectes with Kosuke Bando and Kyoto City University of Arts (Kana Kimino, Kana Munetsugu, Yuri Nakai, and Haru Teraoka), and executed by Seido Ikeda. Curated by Villa Kujoyama and Kyoto City University of Arts Art Gallery @KCUA. Organized by Kyoto City University of Arts and Villa Kujoyama with additional funding from the Japanese Agency for Cultural Affairs

Printed matter

Situation Design 2016-2017: Report (see p. 55)

関連イベント

9月10日(土)

- オープニングレセプション
- 伊藤郁女によるパフォーマンス

9月25日(日)

- レティシア・バドー・オスマンによるパフォーマンス

10月1日(土)

- ニュー・ブランシュKYOTO 2016 @KCUA
 - ・天江大陸によるお茶
 - ・アンヌ・クシラダキス「カフェ・エフェメール」
協力: 木村 宗慎(茶道芳心会主宰)
 - ・ダミアン・ジャレ+ジル・デルマス『The Ferryman』追加上映

社会におけるある種の儀式的の再解釈、味覚にまつわる体験のための新しいオブジェの制作、他のアーティストが行ったリサーチの更なる延長、現在に残る昔ながらの風習の記録などを通して、ヴィラ九条山レジデントとそのコラボレーター達によって作られた出展作品は、日常生活の中でのアートの実践法の共有を提案するものであった。またニュー・ブランシュKYOTO 2016当日に合わせていくつかのイベントが開催された。天江大陸はエミリー・ペドロンと清水志郎とのコラボレーションによって作られた、低温焼成の技術を用いて素焼きされた茶碗を使った一度限りの茶会を開催。クシラダキスの「カフェ・エフェメール」では、和菓子作家の杉山早陽子とのコラボレーションによるインスタレーション内での和菓子の試食体験が行われた。



2016.9.28 Wed - 10.2 Sun

ニユイ・ブランシュKYOTO 2016 @KCUA

2016/ Arita Porcelain

アンスティチュ・フランセ関西との共同プロジェクト

- 展示室 | @KCUA 1
- 開催日数 | 5日間
- 入場者数 | 912人
- 企画 | アンスティチュ・フランセ関西
京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA
- 主催 | 京都市
アンスティチュ・フランセ関西
- 共催 | 京都国際マンガミュージアム 京都芸術センター 京都市立芸術大学
京都市交通局 ヴィラ九条山
- 特別後援 | 在日フランス大使館
- 後援 | 外務省 在京都フランス総領事館
- 助成 | アンスティチュ・フランセパリ本部/パリ市
- 協賛 | グランケン ポメリー ジャパン 株式会社 ルノー・ジャポン 株式会社
東洋アルミニウム 株式会社 ボロレ・ロジスティクス・ジャパン 株式会社
アニエスベージャパン 株式会社
- 協力 | KYOTO CMEX 実行委員会 エムケイ 株式会社
株式会社 ハースト婦人画報社/きょうとあす
ゲーテ・インスティトゥート・ヴィラ鴨川 sonihouse
株式会社 indigo Vivre le Japon

クリエーティブディレクター | CREATIVE DIRECTORS
ショルテン & バイイングス
Scholten & Baijings
柳原 照弘
Teruhiro Yanagihara

Curated by Institut français du Japon-Kansai and Kyoto City University of Arts Art Gallery @KCUA. Organized by Kyoto City and Institut français du Japon-Kansai and co-organized by Kyoto International Manga Museum, Kyoto Art Center, Kyoto City University of Arts, Kyoto City Transportation Bureau, and Villa Kujoyama under the auspices of the French Embassy in Japan, with support from the Ministry of Foreign Affairs of Japan and the French Consulate General in Kyoto; with additional funding from Institut français and the City of Paris; with the sponsorship of Vranken Pommery Japan Co., Ltd., Renault Japon Co., Ltd., Toyo Aluminium K.K., Bollere Logistics Japan K.K., and agnès b. Japan Inc.; and with the cooperation of the Kyoto CMEX Executive Committee, MK Co., Ltd., Hearst Fujingaho, Goethe-Institut Villa Kamogawa, sonihouse, indigo, and Vivre le Japon



写真 | 大島 拓也 Photos by Takuya Oshima

デザイナー | DESIGNERS

トマス・アロンソ

Tomás Alonso

カースティ・ヴァン・ノート

Kirstie van Noort

タフ

TAF

サスキア・ディーツ

Saskia Diez

ステファン・ディーツ

Stefan Diez

ポーリーヌ・デルトゥア

Pauline Deltour

クーン・カプート

Kueng Caputo

ショルテン & バイニングス

Scholten & Baijings

スタジオ・ウィキ・ソマーズ

Studio Wieki Somers

クリスチャン・ハース

Christian Haas

ビッグゲーム

BIG-GAME

藤城 成貴

Shigeki Fujishiro

クリスチャン・メンデルツマ

Christien Meindertsma

柳原 照弘

Teruhiro Yanagihara

レオン・ランスマイヤー

Leon Ransmeier

インゲヤード・ローマン

Ingegerd Råman

デザイナー 柳原照弘とオランダのデザイナー ショルテン & バイニングスがディレクターをつとめる「2016/」プロジェクトの展示・インスタレーション。有田の職人の高度な技術と、ディレクターを含む16組のデザイナーの才能が集結して生まれた陶磁器のコレクションが展示された。

ニュー・ブランシュ KYOTO 2016 当日には国境・文化・宗教の概念を宿す果実である「無花果」を主役に五感を擽る4人の女性による edible landscape のパフォーマンスが行われ、大きな賑わいをみせた。



関連イベント

10月1日(土)

○ニュー・ブランシュ KYOTO 2016 @KCUA 無花果 nothingness/flower/fruit
出演: 船越 雅代 (Food Anthology)、Luz Moreno (Toolsoffood)、
Pauline Lemberger (Bouchée Double)、脇坂 千紘 (Food Anthology)、
Masahiko Takeda (Recit Records, Velveljin)



出展作家
— ARTIST

マーティン・クリード
Martin Creed

2-11ページに特集あり
Special feature on pp. 2-11

写真 | 来田 猛 Photo by Takeru Koroda

2016.10.22 Sat - 11.27 Sun

KYOTO EXPERIMENT 2016 AUTUMN 公式プログラム マーティン・クリード

- 展示室 | @KCUA 1, 2
開催日数 | 32日間
入場者数 | 2,626人
企画 | 京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA
KYOTO EXPERIMENT
主催 | 京都市立芸術大学
KYOTO EXPERIMENT
助成 | 公益財団法人 ポーラ美術振興財団
協力 | 京都市立芸術大学キャリアデザインセンター
印刷物 | フライヤー（公演のフライヤーとのセット）、
B2判ポスター（公演と共通） デザイン：尾中 俊介 (Calamari Inc.)
たねまきアクア03(2017年度発行)

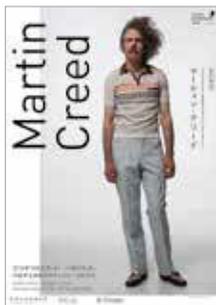
関連イベント

- 10月22日(土)
○マーティン・クリードによるアーティストトーク
○KYOTO EXPERIMENT
京都国際舞台芸術祭 2016 AUTUMN
オープングレセプション(関係者・招待者のみ)
主催：KYOTO EXPERIMENT

Planned by Kyoto City University of Arts Art Gallery @KCUA and Kyoto Experiment with the cooperation of Kyoto City University of Arts Career Design Center. Organized by Kyoto City University of Arts and Kyoto Experiment with additional funding from Pola Art Foundation

Printed matter

Flyer (to be paired with the flyer for the performance) and B2-sized poster (for both the exhibition and the performance) designed by Shunsuke Onaka (Calamari Inc.) Tanemaki Akcua 03 (published in 2017-2018)



常に話題に事欠かない多彩な活動で国際的に活躍するアーティスト、マーティン・クリードの関西初の個展。クリードは現代美術において最も重要な賞の一つであるターナー賞を2001年に受賞し、その後も一貫してミニマルでコンセプチュアルな作品を発表している。関西初の個展となった本展では、劇場上演作品『Work No. 1020(バレエ)』とも密接に関係する2点の映像作品を紹介した。1階の@KCUA 1では2016年の映像作品《Work No. 2656(Understanding)》を、2階の@KCUA 2で2013年の映像作品《Work No. 1701(ウォーキング・フィルム(「You Return」に合わせて))》のそれぞれ1点のみを展示。ミニマルながらインパクトの強い映像インスタレーションは、まさにクリードの表現の本質が凝縮されたものとなった。



写真 | 守屋 友樹 Photo by Yuki Moriya

2016.10.29 Sat / 10.30 Sun

KYOTO EXPERIMENT 2016 AUTUMN 公式プログラム

マーティン・クリード

『Work No. 1020 (バレエ)』

展示室 | 京都市立府民ホール“アルティ”

上演回数 | 2ステージ

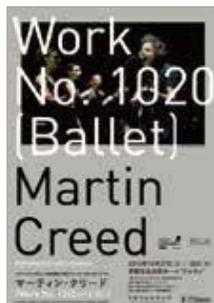
入場者数 | 566人

企画 | 京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA
KYOTO EXPERIMENT

主催 | 京都市立芸術大学
KYOTO EXPERIMENT

助成 | 公益財団法人 ポーラ美術振興財団

印刷物 | フライヤー（展示のフライヤーとのセット）、B2判ポスター（展示と共通） デザイン：尾中 俊介 (Calamari Inc.)
たねまきアクア03 (2017年度発行)



2-11ページに特集あり
Special feature on pp. 2-11

Planned by Kyoto City University of Arts Art Gallery @KCUA and Kyoto Experiment. Organized by Kyoto City University of Arts and Kyoto Experiment with additional funding from Pola Art Foundation

Printed matter

Flyer (to be paired with the flyer for the exhibition) and B2-sized poster (for both the exhibition and the performance) designed by Shunsuke Onaka (Calamari Inc.)
Tanemaki Akua 03 (published in 2017-2018)

関連イベント

10月30日(日)

○ポスト・パフォーマンス・トーク

マーティン・クリードは、身の回りにある物を規則的に配置し、動かすことから、作品を生み出している。クリードによってひとたび社会の文脈から切り離されたモノにまつわる反復や規則性は「リズム」として再提示される。また、ミニマルな美を追求するかに見えて、いつの間にか鑑賞者を巻きこんでいくその作品は、ときに排泄や嘔吐といった生理的な行為にまで及び、議論を巻き起こすことも辞さない、ラディカルな側面も持ち合わせたアーティストである。日本初演となった本作は、クラシックバレエの五つのポジ

ションにダンサーの動きを限定した中で、会話やクリード自身の歌、映像作品も取りこみ舞台が進行する。幾何学的にコントロールされた舞台上の動きと、それを混ぜ返すようなユーモアあふれる構成で楽しませる本作は、彼の多彩な活動が凝縮された作品といえる。

ダンス界の歴史に、平然と横やりを入れるかのような、あくまでもクリード自身の創作活動の延長から生まれた舞台作品は、舞台芸術の見巧者たちにとっても、思わぬカウンターパンチとなったことだろう。



2016.12.1 Thu - 12.11 Sun

京都市立芸術大学 第27回 留学生展

展示室 | @KCUA 1
 開催日数 | 10日間
 入場者数 | 581人
 主催 | 京都市立芸術大学
 印刷物 | A4判フライヤー デザイン：小川 久美子

… 関連イベント …

- 12月1日(木)
- ギャラリートーク
- オープングレセプション 兼 留学生交流パーティー

Organized by Kyoto City University of Arts

Printed matter

A4-sized flyer designed by Kumiko Ogawa



本学では、留学生の受入環境の整備や支援の充実を図るとともに、京都の文化芸術に親しむ機会の提供、更には市民との交流機会の拡大の取組みを進めている。本展は、本学に在籍する世界各国からの留学生のうち、修士課程の本科留学生、研究留学生、交換留学生による毎年恒例の展覧会である。第27回となる今回はアメリカ・イギリス・インドネシア・オランダ・韓国・コンゴ・台湾・中国・ドイツ・フィンランド・フランスからの留学生29名が出展した。

出展作家 | ARTISTS

ミリヤム・アラ=ラシ
Mirjam Ala-Rachi

于 楊 (ウ ヨウ)
Yu Yang

呉 在現 (オ ジェヒョン)
Oh Jaehyun

王 杰 (オウ ケツ)
Wang Jie

王 中孚 (オウ チュウフ)
Wang Zhong Fu

王 夢石 (オウ ム セキ)
Wang Mengshi

ガブリエ・バロンタン
Valentin Gabelier

金 昇賢 (キム スンヒョン)
Kim Seung Hyun

金 昉秀 (キム ミンス)
Kim Minsoo

黄 倩雯 (コウ セイブン)
Silvia Wong

ルイズ・コレ
Louise Collet

朱 勇進 (ジュ ヨンジン)
Joo Yong Jin

徐 子倚 (ジョ シイ)
Xu Zi Yi

申 セミ (シン セミ)
Shin Sai Mi

アンナ・ソフィア・スッセル
Anna Sofia Sysser

ラファエル・セル
Raphaël Serres

田 玥華 (ティエン ユエホワ)
Tien Yueh Hwa

エミリー・テンパートン
Emily Temperton

唐 穎倩 (トウ エイセイ)
Tang Ying Qian

タニア・パウリン
Tania Paulin

ジャデ・ファドジュティミ
Jadé Fadojutimi

イローナ・ブルーズリスコ
Ilona Broeseliske

ニンニ・マクリン
Ninni Mäklin

メニ・ムブーガ
Meni Mbugha

柳 在昊 (ユ ジェホ)
Yoo Jae Ho

劉 夢儒 (リュウ ムジュ)
Liu Mengru

陸 瑋妮 (ル ウエイ ニ)
Lu Wei Ni

盧 柔安 (ロ ジュウアン)
Lu Jou An



写真 | 大島 拓也 Photos by Takuya Oshima



2016.12.17 Sat - 2017.1.22 Sun

カワイオカムラ「ムード・ホール」

出 展 作 家 — A R T I S T	カワイオカムラ Kawai + Okamura	展示室	@KCUA 1, 2, Gallery A, B, C
		開催日数	26日間
		入場者数	2,110人
		サウンドディレクション	原 摩利彦
		企画	「ムード・ホール」プロジェクトチーム (京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA、金氏 徹平、福岡 優子、福永 信)
		主催	京都市立芸術大学
		助成	芸術文化振興基金
		協力	京都造形芸術大学 バミリオン・プレジャー・ナイト製作委員会
		印刷物等	メインビジュアル・ロゴ デザイン：カワイオカムラ A4判プレチラシ、レコードジャケット型フライヤー デザイン：仲村 健太郎 A5変形判書籍・全2巻(54ページ参照)

京都市立芸術大学大学院卒業生の川合匠と岡村寛生による映像ユニット、カワイオカムラの9年ぶりの個展。カワイオカムラは1993年に結成され、彫刻と絵画が合体した巨大なライトボックス作品などを制作していたが、徐々にその絵画的、造形的要素は映像の中へと展開した。現在は主にデジタル・モデルアニメーションを中心に、各国の国際映画祭での出品・受賞など世界的に活動している。

本展は「mood hall」とも「mood hole」とも聞き取れるキーワードをタイトルに、堀川御池ギャラリーの全室や共有スペースを含む全館を使って開催された。新作《ムード・ホール》プロジェクトの発表、前述のライトボックス作品の修復展示や最初期の映像作品の数々の再展示、第35回アルスエレクトロニカ・フェスティバルで栄誉賞を受賞した映像作品《コロソス》の日本初上映など、カワイオカムラ史上最大規模の個展となった。





写真 | 市川 靖史 Photos by Yasushi Ichikawa

Sound direction by Marihiko Hara. Curated by the Mood Hall/Mood Hole Project Team (Kyoto City University of Arts Art Gallery @KCUA, Shin Fukunaga, Yuko Fukuoka, and Teppei Kaneuji). Organized by Kyoto City University of Arts with additional funding from Japan Arts Council and the cooperation of Kyoto University of Art and Design and the Vermillion Pleasure Night Production Committee

Printed matter, etc.

Main visuals and logo designed by Kawai + Okamura
 A4-sized teaser flyer and record sleeve-shaped flyer designed by Kentaro Nakamura
 A5 variant-sized book, 2 vols. (see p. 54)

関連イベント

12月17日(土)

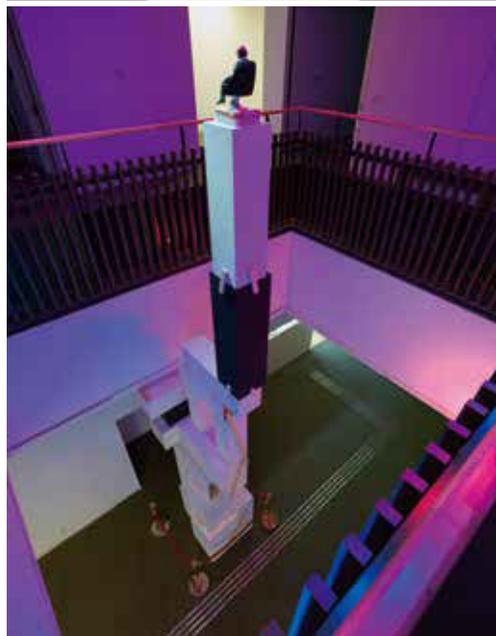
- アーティストトーク
- オープニングレセプション

12月25日(日)

- ムード・ホール・ナイト(第一夜)
- 出演：カワイオカムラ

1月14日(土)

- ムード・ホール・ナイト(第二夜)
- ディレクション：カワイオカムラ
- 司会・進行：福永 信
- 出演：カワイオカムラ、伊藤 存、金氏 徹平、荒木 優光





出展作家
ARTISTS

小笠原 周
Shu Ogasawara
香川 裕樹
Hiroki Kagawa
清田 泰寛
Yasuhiro Kiyota

小宮 太郎
Taro Komiya
寺岡 海
Kai Teraoka
むらた ちひろ
Chihiro Murata

写真 | 守屋 友樹 提供 | 京都工芸繊維大学美術工芸資料館 Photo by Yuki Moriya, courtesy of Kyoto Institute of Technology Museum and Archives

2017.1.28 Sat - 2.12 Sun

「未来の途中」プロジェクト 未来の途中の、途中の部分

展示室 | @KCUA 1

開催日数 | 14日間

入場者数 | 1,263人

企画 | 京都工芸繊維大学美術工芸資料館
京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA

主催 | 文化庁(平成28年度「次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」)
京都工芸繊維大学
京都工芸繊維大学美術工芸資料館
京都市立芸術大学

印刷物 | A4判フライヤー デザイン: 木村 幸央

B5判カタログ 制作・発行: 京都工芸繊維大学美術工芸資料館 発行日: 2017年3月20日

Curated by Kyoto Institute of Technology Museum and Archives and Kyoto City University of Arts Art Gallery @KCUA. Organized by the Japanese Agency for Cultural Affairs (Program for Nurturing Upcoming Artists who lead the next generation, FY 2016-17), Kyoto Institute of Technology, Kyoto Institute of Technology Museum and Archives, and Kyoto City University of Arts

Printed matter

A4-sized flyer designed by Yukio Kimura
B5-sized catalogue edited and published by Kyoto Institute of Technology Museum and Archives on March 20, 2017



京都工芸繊維大学美術工芸資料館主催の、若手作家の成長支援を目的とする「未来の途中」プロジェクトの3期生による展覧会。同プロジェクト3期生10名は、プロジェクト2年目のプログラムとして、京都にある15の大学附属ミュージアムのネットワークである「京都・大学ミュージアム連携」と連動し、@KCUAならびに京都造形芸術大学ARTZONEに分かれて展覧会を実施した。

@KCUAでは、プロジェクトタイトルである「未来の途中」という言葉の「途中」に焦点を当てた。参加作家たちは本展への出品作品の中に、それぞれの「未来」に対して、自分がまだ「途中」にあると思う「もの」・「こと」を表した。ゲスト作家であるプロジェクト1期生の寺岡海は企画者との対話を経て、映像作品《出展者の作品と旅に出る》を制作。本展の参加作家による作品と共に各地を旅する様子を捉え、「未来の途中」の「途中の部分」を表現した。



写真 | 守屋 友樹 提供 | 鳥居本 顕史 Photos by Yuki Moriya, courtesy of the artist

出
展
作
家
|
A
R
T
I
S
T

鳥居本 顕史
Takafumi Toriimoto

2017.1.28 Sat - 2.12 Sun

鳥居本顕史「1より小さく0より大きい1」

展示室 | @KCUA 2

開催日数 | 14日間

入場者数 | 1,263人

主催 | 京都市立芸術大学

印刷物 | B5判フライヤー デザイン: 竹内 敦子

Organized by Kyoto City University of Arts

[Printed matter](#)

B5-sized flyer designed by Atsuko Takeuchi



本学大学院博士後期課程版画領域に在籍する鳥居本は、「表面の分割操作」という概念のもと作品を制作している。鳥居本は「複製」について考える中で、石を割ると現れる、凹凸が相互に対応する二つの断面や、中が空洞になっている立体物の外面と内面などに注目し、それぞれを一種の複製としての「表面の分割」と捉えている。本展のタイトル、「1より小さく0より大きい1」は、「数」の捉え方を表している。今回の展覧会では鳥居本は8点の作品を、展示室内に出現した「窓」を通して鑑賞できるように展示し、「表面の分割操作」を通して「数」の概念を捉え直そうと試みた。



写真 | 大島 拓也 Photo by Takuya Oshima

出展作家 | ARTISTS

- 阿部 緑
Midori Abe
- 飯塚 二郎
Jiro Iitsuka
- 石原 友明
Tomoaki Ishihara
- 上野 政彦
Masahiko Ueno
- 大谷 史子
Fumiko Otani
- 岡田 英子
Hideko Okada
- 片野 満
Mitsuru Katano
- 久保 隆三・沖勝之
Ryuzo Kubo and Katsuyuki Oki
- 栗本 夏樹
Natsuki Kurimoto
- 小池 一範
Kazunori Koike
- 田川 真千子
Machiko Tagawa
- 田所 裕子
Yuko Tadokoro
- 玉腰 久美子
Kumiko Tamakoshi
- 砥綿 正之
Masayuki Towata
- 長尾 浩幸
Hiroyuki Nagao
- 橋本 佳子
Yoshiko Hashimoto
- 長谷川 直人
Naoto Hasegawa
- 前野 正司
Masashi Maeno
- 明賀 政子
Masako Myoga
- 村上 吉寿
Yoshikazu Murakami

2017.2.18 Sat - 3.5 Sun

京都市立芸術大学美術学部同窓会展

1980年代再考のためのアーカイバル・プラクティス

… 関連イベント …

2月18日(土)

○ギャラリートーク

ゲスト: 原 久子(大阪電気通信大学教授)

○オープニングレセプション

3月4日(土)

○京都市立芸術大学 特別プロジェクト2016 / 状況のアーキテクチャー

「Transferring Matter: 創造的アーカイブ」公開講座

「リサーチプログラム——Still Moving: The '80s」

展示室 | @KCUA 1

開催日数 | 14日間

入場者数 | 1,333人

企画 | 京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA

京都市立芸術大学芸術資源研究センター

状況のアーキテクチャー「Still Moving: The '80s」プロジェクト

主催 | 京都市立芸術大学

京都市立芸術大学美術学部同窓会象の会

助成 | 平成28年度 京都市立芸術大学 特別研究助成 2016-004

印刷物 | A4判フライヤー デザイン: 柳澤 裕樹(サクサクデザイン)

「状況のアーキテクチャー」2016年度報告書(55ページ参照)

Curated by Kyoto City University of Arts Art Gallery @KCUA, Kyoto City University of Arts Archival Research Center, and the Situation Design "Still Moving: The '80s" Project. Organized by Kyoto City University of Arts and the Alumni Association of Kyoto City University of Arts (Faculty of Fine Arts) with additional funding from the Kyoto City University of Arts 2016-2017 Special Research Grant 2016-004

※作家名は作品制作時点/ローマ字表記は確認できていない場合があります
Artist names given as of year of production. Romanizations are not all confirmed

Printed matter

A4-sized flyer designed by Yuki Yanagisawa (Saku Saku Design)

Situation Design 2016-2017 Report (see p. 55)

48-51ページに関連情報あり
Related information on pp. 48-51



ポストモダン全盛期、欧米から輸入された概念に依らず独自の表現が進化していった1980年代。東山区今熊野にあった旧校舎から1980年に移転したばかりの西京区大枝沓掛町キャンパス(現校舎)では、学生たちが東京藝術大学との交流展「フジヤマゲイシャ」を企画するなど、非常に意欲的な活動を展開していた。それらの活動は、1980年代の日本美術を考える際の重要なキーワードである「関西ニューウェーブ」へとつながっていく。本展では、この頃に制作された卒業生の作品ならびに本学芸術資料館収蔵品となった当時の卒業・修了作品を展示するとともに「フジヤマゲイシャ」に関連した資料も公開した。



写真 | 大島 拓也 Photo by Takuya Oshima

出
展
作
家
|
A
R
T
I
S
T
S

西條 茜
Akane Saijo
嶋 春香
Haruka Shima

2017.2.18 Sat - 3.5 Sun

西條茜+嶋春香「rhizome」

関連イベント

2月18日(土)
○オープニングレセプション

展示室 | @KCUA 2
開催日数 | 14日間
入場者数 | 1,311人
主催 | 京都市立芸術大学
印刷物 | A3変形(二つ折り)フライヤー デザイン: 仲村 健太郎

Organized by Kyoto City University of Arts

Printed matter

A3-sized flyer (folded in half) designed by Kentaro Nakamura



「rhizome」とは、フランスの哲学者ジル・ドゥルーズと精神科医フェリックス・ガタリの共著『千のプラトー』で展開される概念で、中心を持たず異質な線が交錯しあい、多様な流れが方向を変えて延びていく状態を指す。表現の手法やアプローチは異なるものの、共に「道具」をモチーフとし、作品制作の過程でその背景にあるものを読み解いていくことを共通点とする西條と嶋は、この「rhizome」のタイトルのもとに、既にあるものへの言及ではなく、そこから新たな解釈を与えようと試みた。

本展にて、二人の作品が一つの部屋に共存し、その共通点と相違点を交錯させつつ、作品から放たれる普遍的なもの和个人的なものがさまざまに広がりながら絡み合っていく様は、まさに「rhizome」さながらとなった。

出展作家 | ARTIST
ひろいのぶこ
Nobuko Hiroi



写真 | 矢野 誠 提供 | ひろいのぶこ Photos by Makoto Yano, courtesy of the artist

2017.3.11 Sat - 3.26 Sun

京都市立芸術大学退任記念 旅する布たち —ひろいのぶこ展—

展示室 | @KCUA 1, 2
開催日数 | 14日間
入場者数 | 2,341人
主催 | 京都市立芸術大学
印刷物 | A4判フライヤー デザイン: 柳澤 裕樹(サクサクデザイン)
A5判作品集『旅する布 Traveling Textiles works/words/worlds』
著者: ひろいのぶこ 企画・編集: 井上 明彦、藤井 良子
発行: 美学出版 発行日: 2017年3月11日



Organized by Kyoto City University of Arts

Printed matter

A4-sized flyer designed by Yuki Yanagisawa (Saku Saku Design)
A5-sized catalogue written by Nobuko Hiroi and planned and edited by Akihiko Inoue and Ryoko Fujii.
Published by Bigaku Shuppan (Tokyo) on March 11, 2017

関連イベント

3月11日(土)

- ギャラリートーク ひろいのぶこ×井上明彦×永守伸年
講師: ひろいのぶこ、井上 明彦(京都市立芸術大学美術学部教授/造形計画)、
永守 伸年(京都市立芸術大学美術学部講師/哲学)
- オープニングレセプション

3月20日(月・祝)

- ギャラリートーク ひろいのぶこ×上羽陽子
講師: ひろいのぶこ、上羽 陽子(国立民族学博物館文化資源研究センター・准教授/民族芸術学・染織研究)



京都市立芸術大学美術学部工芸科染織専攻教授、ひろいのぶこの退任記念展。羊毛や絹などの繊維を中心に、紙・金属・貝・珊瑚などの素材、織る・組む・縫う・縮絨(しゅくじゅう)などの技法による平面や立体、インスタレーションの作品59点を展示した。また、日本と世界をめぐる染織研究の旅を通じて、ひろい自身が収集した多種多様な染織品や道具類、素材なども展示した。



写真 | 松見 拓也 Photos by Takuya Matsumi

出展作家
— ARTISTS

鮎川 奈央子
Naoko Ayukawa
伊藤 樹里
Juri Ito
加納 明香
Haruka Kano
河原 雪花
Setsuka Kawahara
小松 和子
Kazuko Komatsu
土居 あかね
Akane Doi
中村 真由美
Mayumi Nakamura
萩原 宏一郎
Koichiro Hagihara
武藤 桃
Momo Muto
山口 真琴
Makoto Yamaguchi
山野 将志
Masashi Yamano

2017.3.23 Thu - 3.30 Thu

京都市立芸術大学 特別プロジェクト2016

状況のアーキテクチャー 「Tracing Life: 生存の技法——ケア×アート」プロジェクト
「オープンキッチン」成果展
Open Kitchen

48-51ページに関連情報あり
Related information on pp. 48-51

展示室 | Gallery A

開催日数 | 8日間

入場者数 | 774人

主催 | 京都市立芸術大学

共催 | 一般財団法人 たんぼぼの家 社会福祉法人 わたぼうしの会

助成 | 平成28年度文化庁「大学を活用した文化芸術推進事業」

印刷物 | A4変形フライヤー デザイン：岡田 将充(OMD)

「状況のアーキテクチャー」2016年度報告書(55ページ参照)、たねまきアクア03(2017年度発行)

Organized by Kyoto City University of Arts and co-organized by Tanpopo-no-ye Foundation and Wataboshi-no-kai with additional funding from the Japanese Agency for Cultural Affairs

Printed matter

A4 variant-sized flyer designed by Masamitsu Okada (OMD)

Situation Design 2016-2017: Report (see p. 55)

Tanemaki Akcua 03 (published in 2017-2018)

関連イベント

3月30日(木)

○輪つなぎカフェ



「オープンキッチン」とは、奈良の障害者福祉施設であるたんぼぼの家と、京都市立芸術大学との両者の距離を探りあてるためのプロジェクトである。実施期間中にはたんぼぼの家のアーティストと本学学生が五つのペアを組み、作品を取り交わした。箱に入って届けられた作品につくり足したり、つくり変えたり、あるいは別の作品を入れて送り返したりしてもよいという自由なルールのもとに始まったやり取りは、2016年の夏から展覧会の直前まで続いた。本展では、その結果としての作品だけではなく、それに至るまでの映像や写真、手記を併せて展示した。時に足取りあやうく奇妙な文通の記録の公開となった。

イベント他

Events, etc.

状況のアーキテクチャー

SITUATION DESIGN 2016-2017

京都市立芸術大学は1880年の開学より日本の芸術文化の火床として世界への発信基地であり続けてきた。そしていま、2023年に予定された郊外から都市部への移転を控え、あらためて「芸術であること」「大学であること」「地域にあること」の意味を問い直している。《芸術》×《大学》×《地域》に「相互触媒的な関係」を生み出すことは、芸術や学問の専門性を社会の多様な現場で活用することを可能にすると同時に、それらの新たな在り方にもつなげる活動への発展をもたらすことだろう。

「状況のアーキテクチャー」では、《物質》《生命》《社会》という人間の根本に関わる三つのテーマを柱とし、芸術を介して生まれるヒト同士や社会との関係の再構築を目的とした複数の実践的プロジェクトを実施している。狭義の「アート」を構成する「アーキテクチャー」を拡張し、芸術的实践を異なった領域や文化、制度と結びつける《横断技術》と専門家と市民が協働して地域社会に新たな状況を構築する《臨場技術》という二つの技術を習得し、多方向からモノゴトを捉え、その視差から世界を多元化する状況の発振に携わる人材の育成を目指す。

技術 1

芸術を媒介として異なった領域、
専門技術、地域、文化、世代、制度、
行政を創造的に連携する

横断技術

技術 2

多様な専門知と市民知を
相互触媒的に交流させ、
地域の現場において
協働で独自の価値を創出する

臨場技術

これら水平と垂直の二軸が交差するクリティカルな場所から創造的なビジョンを発信する実験場が「状況のアーキテクチャー」なのである。

主催 | 京都市立芸術大学

助成 | 平成28年度文化庁「大学を活用した文化芸術推進事業」

プロジェクトの1年目となる本年度は、身体や対話を重視する少人数の「セミナー」、構想・計画・設計から実現にいたるまでのプロセスを専門家と共有することを重視した「プロジェクト」、広く一般に向けた活動紹介としての「公開講座」や「成果発表」といった複数のプログラムを設定した。@KCUAでは、プログラムコーディネーター（p. 59参照）と共に本事業の運営に参画している。また、会場を@KCUAおよび堀川御池ギャラリーとする複数のプログラムが実施された。

物質

セミナー		1S1	うつつから学ぶ
		1P1	Still Moving: The '80s
プロジェクト		1L1	Acting Things
		1L2	プリコラージュ・漂流教室・オーダーメイド
		1L3	まねびの環世界
		1L4	リサーチプログラム—Still Moving: The '80s
公開講座		1L1	Acting Things
		1L2	プリコラージュ・漂流教室・オーダーメイド
		1L3	まねびの環世界
		1L4	リサーチプログラム—Still Moving: The '80s

生命

セミナー		2S1	Tracing Bodies: ダンス×介護
		2S2	Tracing Sounds: 音楽×介護
プロジェクト		2P1	オープンキッチン
		2P2	Tracing Memories: ラップ×介護×アート
		2L1	ダンス×ケア—生存の技法
		2L2	介護するからだ
公開講座		2L3	ためらいの看護
		2L4	刺繍—Embroidery
		2L5	共感の設計
		2L6	Tracing Gaps: ケア×哲学×デザイン
		2L7	アブノーマライゼーションとアート

社会

セミナー		3S1	Moving Terrace Works
		3P1	ニュー・ブランシュ KYOTO 2016 @KCUA [NEW LIFESTYLE]
プロジェクト		3L1	Parallax and Trading Views -1: 日仏建築家の対話
		3L2	新たな芸術大学の構想に向けて—十字路口としての芸術・大学・建築
		3L3	リサーチプログラム—Around the Terrace
公開講座		京都市立芸術大学移転整備プレ事業 リレー講座	
		3L4-1	プレ・デザインの思想
		3L4-2	フィールドワークと新しい設計手法—十日町分室と京都市美術館より ジェントリフィケーションに抗して—コミュニティデザインの視点から 開かれたプロセス設計と建築
		21世紀の資源論—新たな生き方、働き方へ	

テーマ1《物質》 Transferring Matter: 創造的アーカイブ

[プロジェクト] Still Moving: The '80s

日時 | 2017年2月15日(水)-2月17日(金)
講師 | 藤田 瑞穂(京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA 学芸員)
会場 | @KCUA 1
受講者数 | 2人
※他の日時・会場あり

[公開講座] リサーチプログラム——Still Moving: The '80s

日時 | 2017年3月4日(土) 14:00-17:00
コメンテーター | 石原 友明(美術家/京都市立芸術大学美術学部教授/京都市立芸術大学芸術資源研究センター長)
栗本 夏樹(漆造形作家/京都市立芸術大学美術学部教授)
高橋 悟(美術家/京都市立芸術大学美術学部教授)
原 久子(大阪電気通信大学教授)
石谷 治寛(京都市立芸術大学芸術資源研究センター非常勤研究員)
モデレーター | 藤田 瑞穂(京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA 学芸員)
会場 | Gallery C
参加者数 | 22人

テーマ2《生命》 Tracing Life: 生存の技法——ケア×アート

[公開講座] 介護するからだ

日時 | 2016年8月27日(土) 16:30-18:30
講師 | 細馬 宏通(人間行動学/コミュニケーション論/滋賀県立大学教授)
会場 | Gallery C
参加者数 | 17人

[公開講座] ためらいの看護

日時 | 2016年9月3日(土) 14:00-16:30
講師 | 西川 勝(看護/臨床哲学/元・大阪大学コミュニケーションデザインセンター特任教授)
会場 | Gallery C
参加者数 | 18人

テーマ3《社会》 Trading Communities: 制度を使った多文化共生

[セミナー] ニュイ・ブランシュKYOTO 2016 @KCUA [NEW LIFESTYLE]

日時 | 2016年9月6日(火)-9月10日(土)
講師 | 坂東 幸輔(建築家/京都市立芸術大学美術学部教授)
マルチネス・バラ・ラフォール・アーキテクト(建築家/ヴィラ九条山2016年レジデント・アーティスト)
藤田 瑞穂(京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA 学芸員)
会場 | Gallery A, C
受講者数 | 5人
※他の日時・会場あり



2016.3.26 Sat - 4.3 Sun

京都市立芸術大学移転支援事業 京都芸大同窓会アートフェア2016

In Support of KCUA's Relocation KCUA Alumni Association Art Fair 2016

会場	@KCUA 1, 2, Gallery A, B, C
開催日数	2016年度：3日間(4月1日-4月3日) 会期通算：8日間(3月26日-4月3日)
入場者数	2016年度：679人(4月1日-4月3日) 会期通算：2,088人(3月26日-4月3日)
主催	京都市立芸術大学美術学部同窓会象の会
後援	京都市 京都市教育委員会 京都商工会議所 京都新聞 KBS京都 京都銀行 公益財団法人 京都市芸術文化協会 公益社団法人 京都デザイン協会 京都市立芸術大学
協賛	染・清流館 ジーク 株式会社
協力	京都市立芸術大学音楽学部同窓会真声会

Organized by the Alumni Association of Kyoto City University of Arts (Faculty of Fine Arts) with the support of Kyoto City, Kyoto City Board of Education, Kyoto Chamber of Commerce and Industry, Kyoto Shimibun, KBS Kyoto, Bank of Kyoto, Kyoto Arts and Culture Foundation, Kyoto Design Association, and Kyoto City University of Arts, the sponsorship of Somé Seiryu-kan and ZYCC Corporation, and the cooperation of the Alumni Association of Kyoto City University of Arts (Faculty of Music)

協力展
Exhibition

2016.6.11 Sat - 6.17 Fri

エミリー・ペドロン [unfired]

Émilie Pedron: Unfired

展示室	Gallery A
開催日数	6日間
入場者数	444人
主催	ヴィラ九条山
共催	京都市立芸術大学
協力	京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA 数寄屋・杜寺建築 山本興業株式会社

Organized by Villa Kujoyama and co-organized by Kyoto City University of Arts with the cooperation of Kyoto City University of Arts Art Gallery @KCUA and Yamamoto Kogyo Company Ltd.

出展作家
— ARTIST

エミリー・ペドロン
Émilie Pedron

招待作家
— GUEST ARTISTS

植松 永次
Eiji Uematsu
清水 剛
Takeshi Shimizu
松林 佑典
Yusuke Matsubayashi
清水 志郎
Shiro Shimizu
谷 穹
Tani-Q

2016.10.27 Thu 17:30-19:00

第14回アーカイブ研究会 ものが要請するとき加速する

ARC Lecture and Seminar Series No. 14 *Mono ga yōsei suru toki kasoku suru*

講師
木村 友紀
Yuki Kimura

LECTURER

展示室 | Gallery A
入場者数 | 30人
主催 | 京都市立芸術大学芸術資源研究センター

Organized by Kyoto City University of Arts Archival Research Center

2017.2.26 Sun 15:00

五線譜に書けない音の世界 ～声明からケージ、フルクサスまで～

Gosen-fu ni kakenai oto no sekai: Shōmyō kara Cage, Fluxus made

講師
藤田 隆則(日本伝統音楽研究センター教授)
Takanori Fujita (Professor, Research Centre for Japanese Traditional Music)

竹内 直(音楽学部/日本伝統音楽研究センター非常勤講師/芸術資源研究センター非常勤研究員)
Nao Takeuchi (Faculty of Music; Part-time Lecturer, Research Centre for Japanese Traditional Music; Part-time Researcher, Kyoto City University of Arts Archival Research Center)

塩見 允枝子(作曲家/芸術資源研究センター特別招聘研究員)
Mieko Shiomi (composer; Specially Appointed Researcher, Archival Research Center)

大井 卓也
Takuya Ooi
上中 あさみ
Asami Kaminaka

北村 千絵
Chie Kitamura

佐藤 響
Hibiki Sato

寒川 晶子
Akiko Samukawa

鷹阪 龍哉
Tatsuya Takawaki

橋爪 皓佐
Kosuke Hashizume

PERFORMERS

展示室 | Gallery A
入場者数 | 80人
企画構成 | 京都市立芸術大学芸術資源研究センター記譜法研究会(代表: 柿沼 敏江 音楽学部教授)
主催 | 京都市立芸術大学芸術資源研究センター
助成 | 平成28年度 京都市立芸術大学 特別研究助成2016-012

Planned by the musical notation study group at Kyoto City University of Arts Archival Research Center, represented by Toshie Kakinuma (Professor, Faculty of Music). Organized by Kyoto City University of Arts, with additional funding from the Kyoto City University of Arts 2016-2017 Special Research Grant 2016-012

書籍
Book



京都市立芸術大学移転整備プレ事業 still moving - on the terrace

In advance of KCUA's relocation Still Moving - On the Terrace

判型 B5変形
寸法 25.7 × 18.2 × 0.5 cm
カラー フルカラー
ページ数 64 pp.
編集 藤田 瑞穂、永田 絵里
装丁・組版 松本 久木
発行者 京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA
発行日 2017年3月31日
収録内容 藤田清一「still moving 2016」、展示風景写真、展覧会配置図、各プロジェクトの紹介、プロジェクトメンバープロフィール、イベントの記録、主な「京都市立芸術大学移転整備プレ事業」の一覧、藤田瑞穂「(terrace) の上で立ち止まらないために」ほか
言語 日本語、英語

Edited by Mizuho Fujita and Ellie Nagata. Designed by Hisaki Matsumoto. Published by Kyoto City University of Arts Art Gallery @KCUA on March 31, 2017.
Contents: Kiyokazu Washida "Still Moving 2016," installation views, exhibition map, information about each project, project member profiles, documentation of related events, etc.
Language: Japanese, English (mostly bilingual)

展覧会概要は20-23ページ参照
See exhibition details on pp. 20-23

書籍
Book



東日本大震災復興支援・芸術活動支援チャリティーオークション サイレントアークア2016

Charity auction in support of disaster relief and the arts Silent @KCUA 2016

判型 B5変形
寸法 23 × 18.1 × 1 cm
カラー フルカラー
ページ数 118 pp.
編集 京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA
デザイン 仲村 健太郎
発行者 京都市立芸術大学サイレントアークア実行委員会
発行日 2017年3月15日
収録内容 実施記録、前年度寄付団体活動報告、出展作家一覧、出展作品一覧ほか
言語 日本語

Edited by Kyoto City University of Arts Art Gallery @KCUA. Designed by Kentaro Nakamura. Published by the Kyoto City University of Arts Silent @KCUA Committee on March 15, 2017.
Contents: Achievements, artists, artwork thumbnails, etc.
Language: Japanese

展覧会概要は30ページ参照
See exhibition details on p. 30

書籍
Book



カワイオカムラ [ムード・ホール] 1

Kawai + Okamura: Mood Hall/Mood Hole - 1

判型 A5変形(2巻組、カバー・限定版収納ケースあり)
寸法 21 × 12.8 × 1.2 cm
カラー モノクロ
ページ数 164 pp.
編集 福永「アマゾン」信、福岡 優子
デザイン 仲村 健太郎
発行者 京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA
発行日 2017年2月17日
収録内容 川合匠「作者の言葉」、Y.I. ロードブレース「ヘコヒョンテキスト 1999~2016」、カワイオカムラを語る(きむらとしろうじんじゅん、青木淳悟、片野まみ、バラモデル、川合奈穂、蔵屋美香、岡本珠希、雨森信、瀬木広哉、多胡真佐子、伊藤存)、佐々木敦「フィクションがヘコヒョンなら、リアルは何か?」、年譜ほか
言語 日本語

Edited by Shin "Amazon" Fukunaga and Yuko Fukuoka. Designed by Kentaro Nakamura. Published by Kyoto City University of Arts Art Gallery @KCUA on February 17, 2017.
Contents: Text by Takumi Kawai, texts from 1999-2016 directly connected with the *Ficyon* series, real and fictional testimonials about Kawai + Okamura, essay by Atsushi Sasaki, detailed chronology from the artists' birth to the present, etc.
Language: Japanese

カワイオカムラ [ムード・ホール] 2

Kawai + Okamura: Mood Hall/Mood Hole - 2

判型 A5変形(2巻組、カバー・限定版収納ケースあり)
寸法 21 × 12.8 × 1.4 cm
カラー フルカラー
ページ数 148 pp.
編集 福永「スーパースター」信、福岡 優子
デザイン 仲村 健太郎
発行者 京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA
発行日 2017年2月17日
収録内容 〈ムード・ホール〉(2016) 各映像からのスチル、岡村寛生「作者の言葉」、カワイオカムラ インタビュー、Shin "Superstar" Fukunaga and Takafumi Akimoto "About Kawai + Okamura, the Protagonist of This Book"、金氏徹平+カワイオカムラ「ムード・ホール」展 無音ガイド、展示風景写真、藤田瑞穂「ムード・ホールな日々の記録」、ムード・ホール・ナイト セットリスト、1993-2001の作品一覧、活動歴ほか
言語 日本語、英語

Edited by Shin "Superstar" Fukunaga and Yuko Fukuoka. Designed by Kentaro Nakamura. Published by Kyoto City University of Arts Art Gallery @KCUA on February 17, 2017.
Contents: Video stills from *Mood Hall/Mood Hole* (2016), text by Hiroki Okamura, Kawai + Okamura interview, Shin "Superstar" Fukunaga and Takafumi Akimoto "About Kawai + Okamura, the Protagonist of This Book," installation views with notes by Tepei Kaneuji and Kawai + Okamura, a journal from November 21 to January 25 by Mizuho Fujita, "Mood Hall/Mood Hole Night" set list, illustrated list of works from 1993-2001, list of exhibitions/film festivals, etc.
Language: Japanese, English (mostly in Japanese only; text by Fukunaga and Akimoto in English only)

展覧会概要は38-39ページ参照
See exhibition details on pp. 38-39

書籍
Book



事業概要は48-51ページ参照
See program details on pp. 48-51

拡張された場におけるアートマネジメント人材育成事業 状況のアーキテクチャー 2016年度事業報告書

Kyoto City University of Arts Arts Management Program Situation Design 2016-2017: Report

判型	B5
寸法	25.7 × 18.1 × 0.6 cm
カラー	フルカラー
ページ数	72 pp.
編集	「状況のアーキテクチャー」プログラムコーディネーター（岸本 光大、熊野 陽平、中田 有美）、 京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA 学芸員（藤田 瑞穂、永田 絵里）
装丁・組版	柳澤 裕樹（サクサクデザイン）
発行者	京都市立芸術大学
発行日	2017年3月31日
収録内容	「突然自失のアートマネジメント哲学——新たなアートマネジメントへの補助線として」（本事業統括・高橋悟による本学学 長・鷺田清一のインタビュー）、「物質」「生命」「社会」各テーマのセミナー・プロジェクト・公開講座についての報告（開 催概要、記録写真、講師らによる寄稿文、プログラムコーディネーターによるエッセイなど）、高橋悟「裏切りとしてのアート マネジメント」ほか
言語	日本語

Edited by Situation Design program coordinators (Mitsuhiro Kishimoto, Yohei Kumano, and Yumi Nakata), and Kyoto City University of Arts Art Gallery @KCUA curators (Mizuho Fujita and Ellie Nagata). Designed by Yuki Yanagisawa (Saku Saku Design). Published by Kyoto City University of Arts on March 31, 2017
Contents: Prologue (interview of KCUA president Kiyokazu Washida by Situation Design program director Satoru Takahashi), documentation of all seminars, projects, and open lectures with basic information, photographs, texts by instructors and others, and essays by the program coordinators, epilogue (essay by Satoru Takahashi), etc.
Language: Japanese

広報誌
Zine



たねまきアクア02

Tanemaki Akcua 02

判型	B6
寸法	18.2 × 12.3 × 0.2 cm
カラー	フルカラー
ページ数	28 pp.
編集	西谷 枝里子（リレーリレー）、藤田 瑞穂、永田 絵里
デザイン	仲村 健太郎
発行者	京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA
発行日	2016年5月31日
収録内容	たねまきアクアは、@KCUA（アクア）とその周辺に広がる創造活動の現在形、クリエーションが立ち上がろうとしている シーンを紹介していく広報誌です（不定期発行、無料）。

still moving
REPORT @KCUA——徳山拓一「キュレトリアル・リサーチ2015 アメリカ編」
REPORT @KCUA「月が水面にゆれるとき」
SCHEDULE @KCUA 2016.4-2017.3
VOICE @KCUA vol. 2——福永信「常設展示について相談ひとつ」
STUDIO VISIT @KCUA vol. 2——種松永次「伊賀のスタジオ」

言語 日本語

Edited by Eriko Nishitani (Relay Relay), Mizuho Fujita, and Ellie Nagata. Designed by Kentaro Nakamura.
Published by Kyoto City University of Arts Art Gallery @KCUA on May 31, 2016
Contents: *Tanemaki Akcua* is a free zine published by @KCUA to show the various creative activities taking place in and around the gallery.
Still Moving
Report @KCUA: Hirokazu Tokuyama "Curatorial Research 2015: USA"
Schedule @KCUA: April 2016-March 2017
Voice @KCUA vol. 2: Shin Fukunaga "One Little Request about Permanent Exhibitions"
Studio Visit @KCUA vol. 2: Eiji Uematsu "Studio in Iga"
Language: Japanese

@KCUA

KYOTO CITY UNIVERSITY OF ARTS ART GALLERY
京都市立芸術大学 ギャラリー・アクトア [堀川御池ギャラリー内]

単位 : mm

Scale: mm



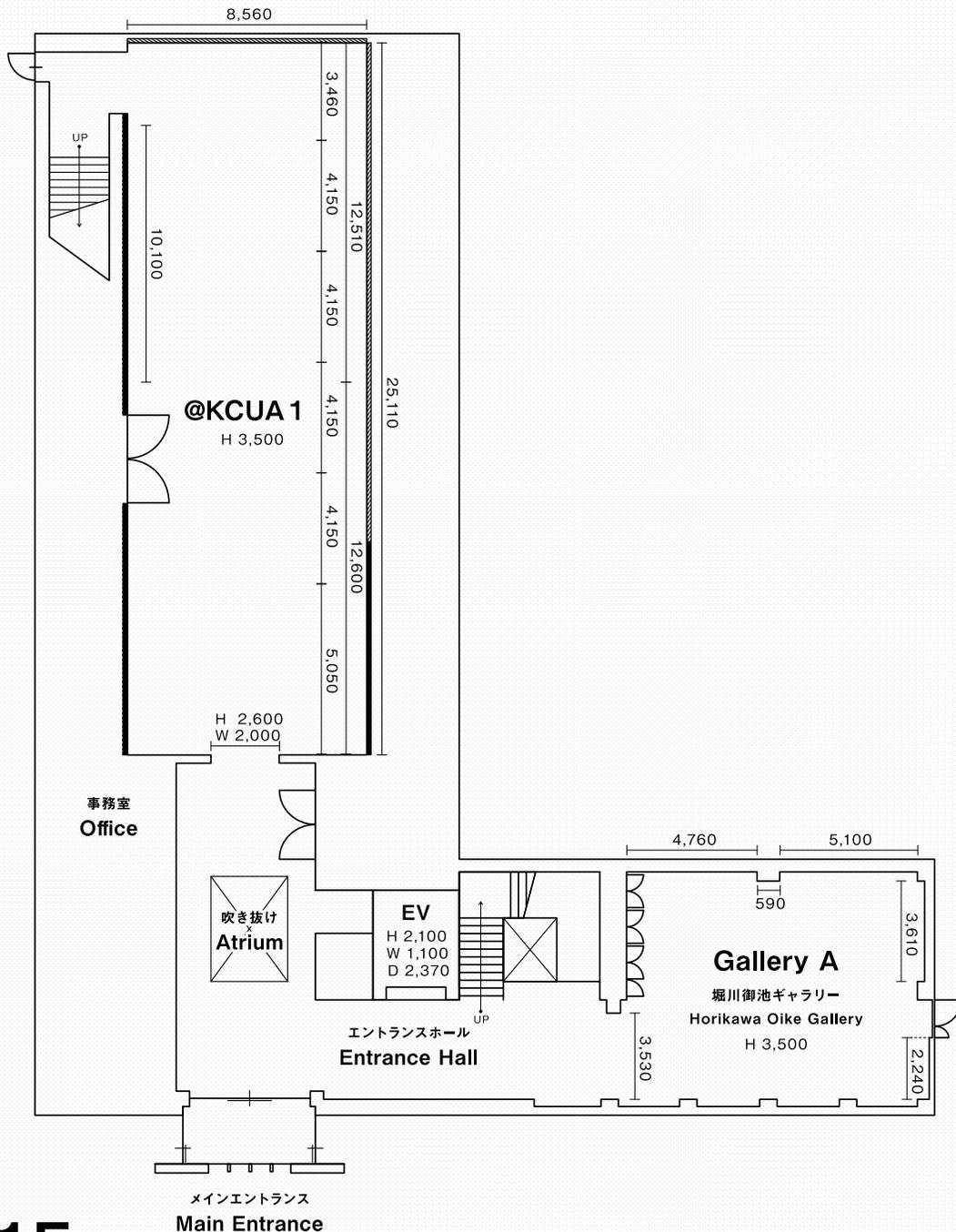
コンパネ 耐荷重40 kg

Plywood board / Withstand loads up to 40 kg



壁表面 : 石膏ボード、内部 : MDFボード 耐荷重15 kg

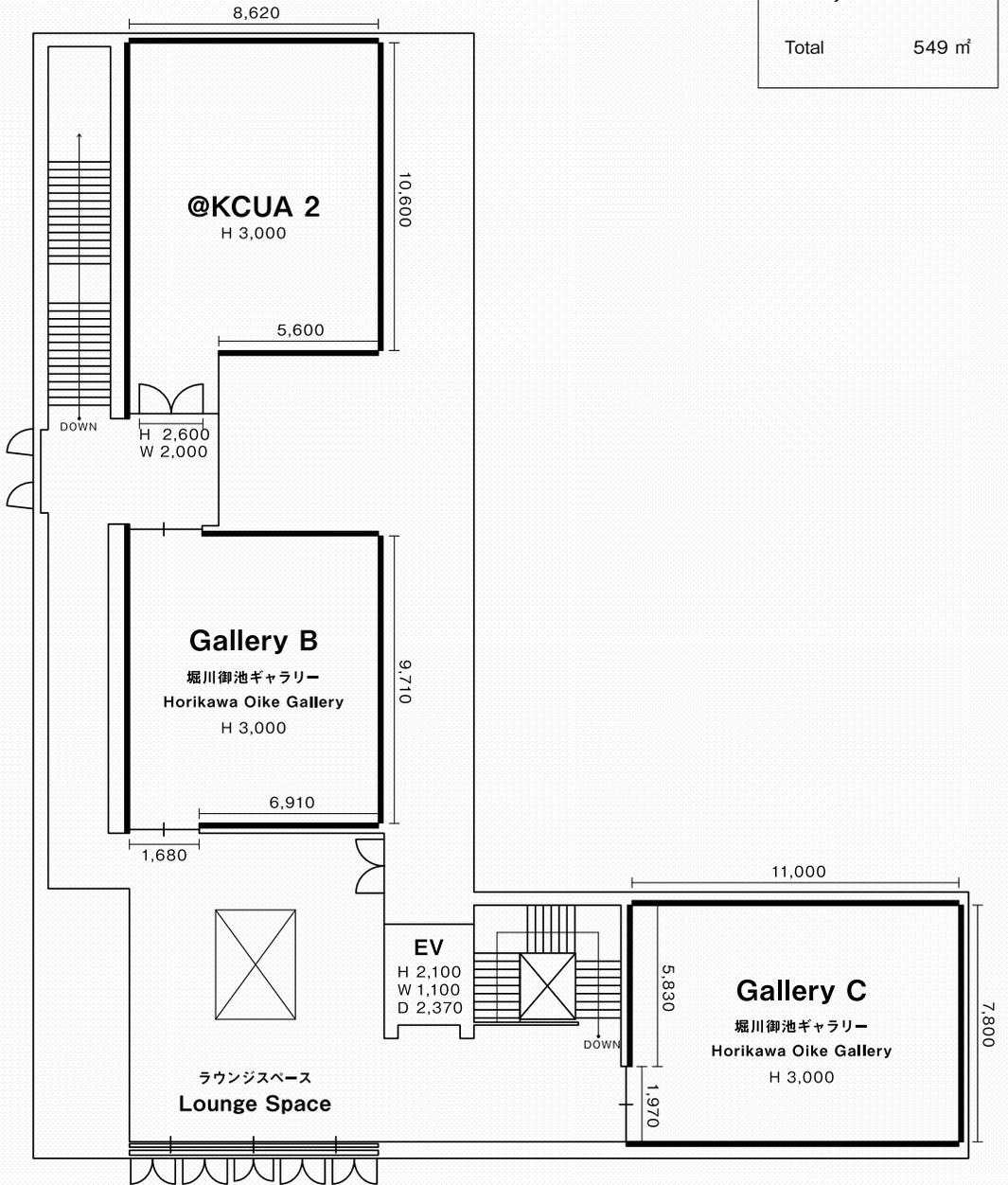
Wall surface: Plaster board / Core: MDF board / Withstand loads up to 15 kg



1F

Floor size

@KCUA 1	215 m ²
@KCUA 2	91 m ²
Gallery A	74 m ²
Gallery B	83 m ²
Gallery C	86 m ²
Total	549 m ²



2F

2016年度 京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA 運営委員会組織

委員長

鶴田 憲次 @KCUA 長、堀川御池ギャラリー館長

委員

高橋 悟 @KCUA 担当理事
藤原 隆男 美術学部長
秋山 陽 美術研究科長
小山田 徹 芸術資料館長
松井 紫朗 美術学部広報委員会委員長
岡田 加津子 音楽学部教員
深谷 訓子 美術学部教員(副委員長)
楠田 雅史 美術学部教員
田畝 智志 日本伝統音楽研究センター教員
石原 友明 芸術資源研究センター所長
藤田 瑞穂 @KCUA 学芸員
永田 絵里 @KCUA 学芸員(2016年5月-)
荒木 裕一 事務局長
天沼 憲 総務広報課長
角田 敏昭 連携推進課附属施設担当課長(委員-2016年9月)
横道 友香子 連携推進課長(委員 2016年10月-)
松尾 芳樹 附属図書館・芸術資料館学芸員

2016年

5月13日(金) 運営委員会
7月5日(火) 企画申請部会
7月21日(木) 運営委員会
10月11日(火) 企画申請部会・運営委員会
12月20日(火) 運営委員会

2017年

3月17日(金) 運営委員会

2016年度 京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA 運営体制

@KCUA 長	鶴田 憲次(堀川御池ギャラリー館長 兼任)
@KCUA 担当理事	高橋 悟(京都市立芸術大学美術学部構想設計専攻教授)
学芸員	藤田 瑞穂、永田 絵里(2016年5月-)
スタッフ	池田 亜耶子、岸本 光大*、松島 景司(2016年7月-)
広報	西谷 枝里子*
経理担当	安西 美恵子
インターン	上杉 創平、松宮 恵子

(* 2016年4月-5月 臨時職員)

京都市立芸術大学主催 拡張された場におけるアートマネジメント人材育成事業(平成28年度文化庁「大学を活用した文化芸術推進事業」) 状況のアーキテクチャー 2016 運営体制

事業統括	高橋 悟
プログラムコーディネーター	岸本 光大、熊野 陽平、中田 有美
プロジェクトマネジメント	藤田 瑞穂
事務局	牧野 祥子、安西 美恵子

京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA 2016年度(平成28年度)年次報告書

編集・発行：京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA

〒604-0052 京都市中京区押油小路町238-1

TEL: 075-253-1509

FAX: 075-253-1510

URL: <http://gallery.kcua.ac.jp>

装丁・組版：柳澤裕樹（サクサクデザイン）

印刷：株式会社グラフィック

発行日：2018年3月31日

© 2018 京都市立芸術大学

Kyoto City University of Arts Art Gallery @KCUA Annual Report 2016-2017

Edited and published by Kyoto City University of Arts Art Gallery @KCUA

238-1 Oshiaburanokoji-cho, Nakagyo-ku, Kyoto 604-0052 JAPAN

Phone: +81-75-253-1509

FAX: +81-75-253-1510

URL: <http://gallery.kcua.ac.jp>

Designed by Yuki Yanagisawa (Saku Saku Design)

Printed by Graphic Corporation

Published on March 31, 2018

© 2018 Kyoto City University of Arts